

原子炉実験所だより

目 次

1. 平成9年度研究炉の運転計画について	1
2. 平成9年度保安教育について	1
3. 平成9年度ワークショップ・専門研究会の審査結果	1
4. 平成9年度共同利用研究の審査結果	2
5. 平成8年度原子炉実験所「将来計画」短期研究会報告	2
6. 第31回原子炉実験所学術講演会報告	8
7. 原子炉利用研究者グループ総会報告	14
8. 停年退官によせて（辻本 忠）	16
9. 照射部材試験システムについて	17
10. 共同利用研究報告書の作成・報告について	18
11. 教官の募集について	23
12. 原子炉実験所学術公開について	24
13. 外国人研究者講演会報告	25
14. 職員の異動	26
15. 委員会メモ（平成8年11月～平成9年1月）	27
別表1 平成9年度研究炉使用計画	28
別表2 平成9年度ワークショップ・専門研究会採択一覧	30
別表3 平成9年度共同利用研究採択一覧	31
編集後記	46

1. 平成9年度研究炉の運転計画について

平成9年度の研究炉の運転は、原子炉熱出力5 MWを原則とする定格出力週（23回）、医療照射日（年間9日）、特性試験日等を設け、年間約1,700時間程度の運転を予定しております。運転計画の詳細は巻末別表1（P28）のとおりです。

2. 平成9年度保安教育について

原子炉実験所における共同利用研究の実施に当たり、実験等のためKUR、KUCA等の各施設・装置等を初めて利用する共同研究者については、実験等の従事前に、放射線障害予防規程、原子炉施設保安規程、核物質防護規程及び関連する法令の定めにより、原子炉実験所が実施する保安教育を受講する必要があります。

平成9年度は6月9日（月）及び9月29日（月）に開催されますが、詳細については後日、各共同利用研究の申請者あてに通知されますので必ず受講して下さい。

3. 平成9年度ワークショップ・専門研究会の審査結果

平成8年11月15日（金）を締切りとして公募を行いました平成9年度ワークショップ・専門研究会は、ワークショップ4件、専門研究会14件の申請がありました。

平成9年1月10日に開催されました共同利用研究委員会における審査の結果、専門研究会1件を不採択とし、他のワークショップ4件、専門研究会13件は採択されました。（採択一覧は、巻末の別表2（P30）を参照）



4. 平成9年度共同利用研究の審査結果

平成8年11月15日（金）を締切りとして公募を行いました平成9年度共同利用研究にはプロジェクト採択6課題34件、通常採択88件（医療照射5件を含む）の申請がありました。

平成9年1月10日に開催されました共同利用研究委員会における審査の結果、通常採択1件を不採択とし、次のように採択が決定されました。（採択一覧は、巻末の別表3（P31～P45）を参照）

採択件数 121件

（内訳） プロジェクト採択

共同研究 6 課題 34件

通常採択

一般研究 20件

共同研究 67件

（医療照射5件を含む）

なお、10月～3月の下半期だけの公募通知は改めて行いませんのでご注意ください。

下半期の利用申請の締切日は平成9年6月6日（金）必着で、7月の共同利用研究委員会で審査が行われます。

申請書の必要な方は共同利用掛まで申し出下さい。

（☆TEL：0724-51-2312（直）

☆FAX：0724-51-2620

☆Eメール：kyodo@rri.

kyoto-u. ac. jp）

5. 平成8年度原子炉実験所「将来計画」短期研究会報告

日時：平成9年1月23日 13：30
～ 1月24日 12：00

場所：京都大学原子炉実験所
事務棟会議室

参加者：82名

（所外28名、所内54名）

1. 開会挨拶・経過報告

前田所長より以下のような挨拶及び将来計画に関する経過報告があった。

原子炉実験所将来計画短期研究会に、多くの方々にご参加頂き、厚くお礼申し上げます。開会にあたり一言ご挨拶申し上げます。

皆様もご存じのとおり、原子炉実験所は学

術審議会原子力部会の報告に応じて平成7年度より研究用原子炉（KUR）の整備を行うと共に、これを用いて行う特徴のある研究を中心に据えて新たな研究動向に対応するため、研究組織の再編成を行いました。そして、平成7年4月より、6大研究部門（20研究分野）と2研究施設の体制で再出発致しております。また、その後、所運営の見直し等も進められてきました。現在、外部評価が行われているところであります。また来年3月にはチェック・アンド・レビューが学術審議会において行われることになっております。

今回の将来計画短期研究会においては、KURを整備して進めている特徴的研究の進捗

状況をご報告し、今後の進め方につきご意見を聞かして頂くと共に、21世紀における原子炉実験所の在り方、即ち実験所の将来計画についても実験所の運営委員会の下に将来計画小委員会を設けて検討を進めておりますので、今回たたき台になるものを提示させて頂き、忌憚のないご意見を頂戴致したく存じております。京都大学は今年、創立100周年を迎えますが、第2世紀に向けての京都大学の一部局としての在り方について今後継続的に検討を進め、国の財政事情の厳しい中ではありますが、実現可能な将来計画案にまとめることができればと思っております。二日間にわたることになりますが、明日には関連研究施設、特に関西におけるそれらの将来計画もお聞きして整合のとれたものにしたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

2. 特徴的研究の進捗状況・計画

次に挙げる5分野の特徴的研究領域から、研究の進捗状況及び今後の研究計画が報告された。

(i)超冷・極冷中性子関係(宇津呂雄彦)

(ii)制御照射関係(義家敏正)

(iii)短寿命RI関係(川瀬洋一)

(iv)超ウラン関係(代谷誠治、森山裕文)

(v)粒子線高度医療関係(小野公二)

主な質疑応答を以下に述べる。この他にも具体的な研究内容に関する議論が行われた。

(ii)制御照射関係

Q: 現在設置を進めている精密制御照射装置では、一つのデータをとるのにどの程度の期間が必要か。そしてそれは今後のKUR本体の寿命と整合性があるか。

A: 1回の実験は照射と測定を含めて約2ヶ

月である。現在考えている課題については約3年で成果を出したい。

(iii)短寿命RI関係

Q: 現在の ^{235}U のfission chamberで有望な新アイソトープはいくつ残っているか。

A: 新アイソトープの探索はほぼ限界に近い。これ以上はターゲットの増量またはCfなどのより重いターゲットを用いる必要がある。しかし、まだ限界に近い核種について、より精度の高い研究を行うというテーマはある。

C: ^{252}Cf などのfissionが非常に有望であれば、そのfission chamberを作成した方がよい。

(iv)超ウラン関係

Q: プロジェクト研究としてそれぞれの分野で成果を出されているが、将来の原子力開発のブレイクスルーのため、そのキーとなる研究項目を取り入れる必要がある。プロジェクトを計画する際に、そのような点を考えているか。

A: そのような研究項目を取り入れることはもちろんである。しかし、超ウラン元素・アクチノイド元素の分野では、試料の供給ルートや研究設備を確保することが目下の課題となっている。このため、実験所のプロジェクト研究では、他機関からの研究者の協力を得て、試料の交換と有効利用及び研究設備の整備等を行うことにしている。

(v)粒子線高度医療関係

Q: 重イオン照射とBNCT治療とを比較する場合、両者のmerit, demeritが明確になっている例はどのようなものか。また将来への両治療法の適用部位等についての見通しはどうか。

A: 一般的な適応で言えば重イオン(陽子で

も十分と考えるが)の方が圧倒的に広い。しかし、悪性神経腫瘍のように正常脳組織に腫瘍細胞が広範囲に浸潤し、モザイクになっている腫瘍では細胞レベルでの選択性がある程度期待できるBNCTの方が有利である。悪性黒色腫のような表在性疾患に対してはBNCTが有利である。

3. 実験所の整備計画・将来計画

財政委員会から整備計画の進捗状況、将来計画小委員会から小委員会の活動及び将来計画の概要が説明された。交換された主な意見を次に示す。

Q：原子炉の安全に係る事項が最優先であることは理解するが、ホットラボのような研究面に対する整備も是非必要である。そのバランスが大切ではないか。

A：そのとおりだが、予算全体にシーリングがかかっているため、どう配分するか難しいのが現状である。

Q：優先順位についてのフィロソフィーとして、安全だけでなく研究成果も問われていたはずである。成果についてのPRをどう行っているか。

A：実験所改組の概算要求をした時に、KURの研究上の役割・主導性を述べた。その後、KUR燃料要素の一括加工の予算を特別経費の枠内で処理するよう求められたため、研究設備関係についての計画を繰り延べないし縮小した要求とせざるをえなくなった。今後は研究成果のとりまとめも含めて、そのフォローが必要であり、将来計画へ向けてKURの成果を宣伝していくことが必要であろう。

Q：実験所全体の整備計画を議論するのなら、臨界集合体(CA)等のKUR以外の設備に

についても考えて欲しい。

A：CAを軽く見るつもりはないし、外部評価でも評価は高い。本整備計画と並行して考えられており、概算要求にもCA整備に関する項目が挙げられている。

Q：特別整備のあとKURは何年程度使えるのか。

A：5ヵ年計画の終わりが整備の終わりを意味するわけではない。安全に関わる装置だけでなく、実験装置についてもいつまで使うかを考えるべきである。この点については、将来計画委員会の検討にゆだねたい。

C：ユーザーの希望する原子炉の規模については、アンケートは正確に出ているのではないか。大きな原子炉を求めるユーザーはだいたいわかる。大概のユーザーは今ぐらいで十分すぎる。いまでも高すぎるという分野もたくさんある。全国を見渡すと武蔵工大炉、立教大炉も困難な状態である。KURの最大の特徴は、小回りが利くことである。原研炉とくらべると非常に使いやすい。大きくすると大学として持ちきれないということもあるが、使いにくくなるという点も考えなければならない。多数のユーザーにとって、現状規模の炉が最大公約数として望ましいものである。ここに来なければ放射能を使った研究はできない研究者にこれからもできる限り便宜をはかることにより、放射能の研究の底辺を広げることが重要である。

C：研究炉を維持管理する技官層の年齢構成は、50才前後の高い層にかたよっている。若くて生きの良い30才、20才台の人がほとんどいない。このままでは技術の継承のみならず、研究炉やその他の施設の運転・保守管理すら現状を維持管理できなくなる。研究を支援す

る上でも真面目に考えて欲しい。また、維持費の問題についても、お金をかけてやらなければ研究炉が維持できない箇所が多数あり、人の問題ともあわせて真剣に取り組んで欲しい。

A：ご指摘の点は共に重要で、将来計画の検討においては重要な要素となっている。京都大学の中でもこれだけの人的財産を持っている部局はない。これを有効に活かせるよう将来計画を検討することが大切である。

4. 関連将来計画

二日目前半は、所外講演者から関連将来計画についての講演があった。それぞれの講演題目及び主な質疑応答は以下のとおり。

(i) 全国の動向（東大核研、柴田徳思）

Q：日本全体としての研究・教育・地域性等を、（省庁間のまとめを含めて）どこが検討しているのか。

A：日本全体の科学研究を考える所は日本科学会議だと思う。ただし、これまで研究施設の配置を全国的な研究者の配置及び教育的な観点から報告が出されたことは無いように思う。

(ii) 阪大核物理研究センター（阪大核物理研、江尻宏泰）

Q：将来構想のなかのMulti GeV領域のR&Dについては、どのような物理を考えているのか。

A：Quark Nuclear Physics, Non-Perturbed QCD, Quark Confinement, Chiral Symmetry, Quark Structures of Hadrons である。

Q：核物理研究センターの設置目的は原子核物理の研究ということになっていると思うが、

他方、加速器の共用ということで他の分野への利用開放も要求されることもあるのではないか。現状はどのようなになっているか。

A：原子核（核子、中間子系からクォーク・レプトン系核物理）に関連する分野として、高エネルギーと宇宙線は入れている。加速ビームを用いた原子物理についても、いくつか入っている。医学応用は、日数を限って基礎研究を行っている。今後、マイクロクラスター、レーザーも興味があり、含める方向で考えている。

(iii) 原研関西研究所における光量子科学研究（原研関西、有澤孝）

Q：ガンマ線レーザーの開発は兵器開発としてLANLで行われてきたが、基礎研究としてガンマ線の透導放射を観測した例があるか。

A：現在、Teの核異性体で2光子 γ 線の出ることについて、フランスにおいて追試（ロシアで1980年代の終わりに行われていたもの）が行われている。Hf核異性体については、新しいup conversion型の誘導放射が可能かもしれないとして、実験が最近進展している。現在、それを用いた検討を進めている。

(iv) SPring-8の現状と将来計画（原研関西、原見太幹）

Q：熊取の実験所が地域への波及効果を図るにあたって何かのヒントが得られるかもしれないので、SPring-8の兵庫県ビームラインの利用形態の特徴について述べて欲しい。

A：マイクロビームを使った物質研究と医学利用研究を柱としている。兵庫県ビームラインは、県立大学（姫路工大）が中心になって進められている。物質研究は兵庫県の産業界と連携して進めている。

5. 総合討論・コメント

本短期研究会の最後に将来計画全般に関する総合討論が行われた。主な意見を次に示す。

- ・各将来計画において、アカデミズムでのそれぞれの計画の正当性、社会的な合意がなされたはずである。それぞれ、社会的正当性を認めさせるためのプロセスをどのように進めたのか。

- ・阪大核物理研究センターの計画では、基礎科学として素粒子研究が重要であるということと関連技術の応用が進むという2点が計画を進めるべき大きな理由とした。それを認めてもらうために国際評価委員会を作り、また国際シンポジウムを行ってきた。

- ・放射光は筑波で既に稼働しており、ユーザーの数が多くなってマシンタイムの欠乏が問題になってきたことと硬X線の有用さが認識されてきていた。ユーザーグループが同好会的に組織され、そのグループが文部省に働きかけを行っていた。また別に理研としても放射光計画を持っていたため、科学技術庁が行うことになり、理研と原研の協力の下で組織されることとなった。大型放射光施設（硬X線領域の光源）の必要性が研究者の声として国内外に高まったことによりSPring-8の建設に至ったといえる。

- ・JHPの場合、核物理・中性子散乱・中間子・不安定核の加速等、国内で育った技術・研究手法のさらなる拡大を望む研究者の声をまとめたものである。これらの計画を学術会議物研連で支持を得るという形で進んでいる。

- ・研究者レベルでのジャスティフィケーションが遅れている。中性子研究は過渡期にあり、研究条件が変わる中で我々はどのように研究をするかを考えなければならない。関連研究

者が、将来計画としてどのような計画がいいのかということを明らかにする必要がある。規模は小さくても研究意義、コンセプトが明確でなければならない。実験所がイニシアチブを発揮して明確なコンセプトを作り、さらに中性子源の姿を明らかにすべきである。

- ・実験所の将来計画については、KURの問題等、純粋な話にはなりにくいですが、できるだけ明確に行いたいと考えている。今回の短期研究会では、こういう可能性があるという意味で現在の将来計画案を出しているのであって、「素案の素案」という段階である。各研究分野から意見を出して欲しい。今回の案を各分野に持ち帰り、議論の結果をフィードバックして欲しい。

- ・一般社会あるいは一般市民のなかで、この実験所の技術集団が持つ高い潜在的な価値を自覚して、元気を出して将来計画を練り上げて欲しい。一方では、関西の地域に対する貢献、さらには理科離れの傾向から来る後継者育成上の困難も頭の中に入れて、この実験所の存在価値を見直すことができるのではないかな。

- ・大学が持つ全国共同利用研究所としての負担が従来は非常に大きかったと思う。特に加速器設備とは異なり、原子炉を運転して共同利用に供していくことは大変で、本研究所では教官の負担が大きい。その意味においても研究は（一面的な言い方ではあるが炉の運転は）「自分たちの研究テーマのために行う」との方向が望ましい。「私たちの研究テーマに対して全国の研究者に参画してもらう」との方向を意識することが大切で、新しい将来計画ではそれが出ているように思えて大いに期待している。外部からの利用者也成果を出

6. 総括・閉会挨拶

最後に前田所長からまとめと参加者へ謝辞が以下のように述べられた。

二日にわたって実験所の将来につき熱心にご討論頂き、厚くお礼申し上げます。時間の制約で議論が途中打ち切りになり残念ですが、今日を将来計画の検討のスタートとし、皆さんのご意見を参考にしながら進めていきたいと考えております。

一号炉は原子力推進の波に乗ってできましたが、二号炉計画は各所のサポートもあり予算化もされながらできませんでした。所員の意志を揃えることができなかったことが問題でした。二号炉計画の轍を踏まぬよう所員は自分の立場に安住せずベクトルを揃えて、将来計画の検討・推進に当たりたいと考えてお

ります。

先ほどからの議論にありましたように計画の妥当性が問われますが、研究者の支持を得ることは当然のことですが、研究者の自己満足では駄目で、研究成果の社会への還元が必要だと思います。今後広い視野を持って検討を進めていきたいと考えます。今回は、大学炉、特に私大炉との意見交換が欠けていましたし、また国際協力、特にアジアにおける協力関係も今後考えていきたいと思ひます。

皆様の暖かいご指導・ご支援をお願い致します。

追記) 本短期研究会の報告書は、KUR Reportとして発刊される予定となっております。

京都大学原子炉実験所 平成8年度「将来計画」短期研究会 プログラム

日 時：平成9年1月23日（木）・24日（金）

場 所：原子炉実験所 事務棟会議室

1月23日（木）

13:30-13:40 開会挨拶・経過報告

前田 豊所長

13:40-15:20 特徴的研究の進捗状況・計画

（座長：前田 豊所長）

超冷・極冷中性子関係

宇津呂雄彦

制御照射関係

義家 敏正

短寿命R I 関係

川瀬 洋一

超ウラン関係

代谷誠治・森山裕丈

粒子線高度医療関係

内海博司・小野公二

15:20-15:30 休憩

15:30-17:20 実験所の整備計画・将来計画

（座長：宮崎慶次（阪大工））

整備計画の進捗状況

財政委員会

将来計画小委員会の活動

将来計画小委員会

将来計画の概要その1
将来計画の概要その2
コメント等

将来計画小委員会
同 上

17:30-19:00 懇親会

1月24日（金）

9:30-11:00 関連将来計画

（座長：井上 信（京大化研））

全国の動向

柴田徳思（東大核研）

阪大核物理研究センター

江尻宏泰（阪大核物理研）

原研関西研究所における

光子科学研究所

有澤 孝（原研関西）

SPRING-8の現状と将来計画

原見太幹（原研関西）

11:00-11:15 休憩

11:15-12:00 総合討論・コメント

（座長：将来計画小委員会）

12:00-12:10 総括・閉会挨拶

前田 豊所長

6. 第31回原子炉実験所学術講演会報告

表記講演会が、去る1月21日（火）、22日（水）、23日（木）の3日にわたって開催されました。

第一日目は 13:00～18:00

第二日目は 9:30～18:00

第三日目は 9:30～12:00

この間に、一般口頭発表23題、ポスター発表8題、平成6年度から始まった2題のプロジェクト研究の成果報告が行われました。また、この3月末をもって停年退官される原子炉安全管理研究部門の小林愼江助教授、下浦一邦助教授、辻本忠助教授の特別講演がありました。プログラムは下記のとおりです。

所外からは3日間で延べ40名程度の人々に参加頂きました。所員の方々の出席は毎日50名前後でした。

プロジェクト研究の成果発表は2年目ですが、実験所共同利用の重要な役割を担うプロジェクト研究について、より有意義な結果発表ができるよう引き続き努力することが望まれます。

今年は宇宙通信システムを使って他大学への放送を試みましたが、種々設備の不備な点もあり、講演者に多くの不便をおかけしましたが、今後のシステムの利用に多大な経験を得ることができました。

第31回京都大学原子炉実験所学術講演プログラム

開催日 1997年1月21日(火)12:00～1月23日(木)12:00

会場 京都大学原子炉実験所 事務棟会議室（講演会場）
図書棟ロビー（ポスター会場）

1月21日(火)

開会の挨拶 所長 前田 豊

プロジェクト研究の成果講演 1

座長 宇津呂雄彦（京大炉） コメンテーター 義家 敏正（京大炉）

低速中性子散乱法による金属材料の力学物性研究 代表者 小野 正義（京大炉）

PR1-1) 総括 小野 正義（京大炉）

PR1-2) 中性子回折法による繊維系複合材料の異方性および内部応力評価

落合庄治郎、北條 正樹、岩崎 直哉、澤田 武洋（京大工メゾ材料研）、
酒井 修二（日立電線）、高橋 謙一、山田 雄一（住友電工）、
小野 正義（京大炉）

PR1-3) コメント 義家 敏正（京大炉）

一般講演（口頭発表）

座長 岩田 豊（京大炉）

1) SANSによるk-Carrageenanのゾル-ゲル転移の観測

杉山 正明、湯浅 親範（九大理）、原 一広、岡部 弘高（九大工）、
平松 信康、中村 忠嗣（福大理）、前田 豊（京大炉）

2) 中性子散乱実験用三重極限（高圧、高磁場、低温）装置の開発

川野 眞治、福井 進（京大炉）、小野寺昭史（阪大基礎工）、
網田富士嗣（京大理）、松本 清（JMT）、大友 昭敏、
盛合 敦（原研・研究炉）、片野 進（原研・中性子）

座長 松山 奉史（京大炉）

3) 中性子重照射したAlN中の生成元素とその挙動

跡部 紘三、田代 知典、本田 亮、福岡 登、松川 徳雄（鳴門教大自然）、
岡田 守民（京大炉）、中川 益夫（香川大教育）

4) 有機固体中の銀原子の蛍光機構

荒井 重義（京都工繊大）、長谷 博友（京大炉）、宮武 陽子（阪大基礎工）、
星野 幹雄（理研）

座長 藤田 薫顕（京大炉）

5) ^{153}Nd の β 崩壊

谷口 秋洋（京大炉）、生田 智彦（原研東海）、長 明彦（原研高崎）、

山本 洋、河出 清（名大工）、阮 建治（立教大理）、山田 繁、
川瀬 洋一、岡野 事行（京大炉）

6) 平均世代時間と増倍係数の関係

林 正俊（京大炉）

7) OKTAVIAN パルス球実験による核データベンチマーク

市原 千博（京大炉）、林 脩平（立教大原研）、木村 逸郎（京大工）、
山本 淳治（摂南大工）、高橋 亮人（阪大工）

8) 1995 年兵庫県南部地震の強震動と被害

釜江 克宏（京大炉）、入倉孝次郎（京大防災研）

特 別 講 演

座長 西牧 研壯（京大炉）

9) 雑感－放射性廃棄物管理

下浦 一邦（京大炉）

1月22日(水)

プロジェクト研究の成果講演 2

座長 工藤 章（京大炉） コメンテーター 森 千鶴夫（名大工）

京大炉における制御可能な放射線に対する放射線防護に関する基礎的研究

代表者 辻本 忠（京大炉）

PR2-1) 総括 辻本 忠（京大炉）

BaF₂ 結晶を用いた数十MeV 領域光子エネルギースペクトル評価法の開発

占部 逸正（福山大工）、小田 啓二、山内 知也（神戸商船大）、
中島 敬行（鈴鹿医科技大）、辻本 忠、小林 捷平、秋吉 恒和、
義本 孝明（京大炉）

PR2-3) n-γ 混在場における線量測定のための双子型電離箱の開発

山本 幸佳（阪大 RI）、山西 弘城、三宅 均、佐久間洋一、
宇田 達彦、大林 治夫（核融合研）、義本 孝明、
辻本 忠（京大炉）

PR2-4) ラドン・トロン弁別測定法に関する研究

飯田 孝夫（名大工）、三宅 寛（神戸商船大）、木村雄一郎、
小川 喜弘（近大理工）、森嶋 彌重（近大原子）、
西川 嗣雄（福井大工）、辻本 忠、山崎 敬三（京大炉）

PR2-5) KUR 施設内のラドン・トロン及びそれらの娘核種の動態

山崎 敬三、辻本 忠（京大炉）、下 道国（岐阜医短大）、
黒澤 龍平（早大理工総研）、飯田 孝夫（名大工）、児島 紘（東理大理工）

PR2-6) コメント 森 千鶴夫 (名大工)

一般講演 (口頭発表)

座長 小林 愼江 (京大炉)

- 10) ミネラル偏食ラットと紀伊半島の筋萎縮性側索硬化症、脊椎靱帯石灰化症例のMg、Ca動態の類似性

安井 昌之、吉田 宗人、玉置 哲也、谷口 泰徳、南出 晃人、
大田喜一郎 (和歌山医大)、笹島 和久 (京大炉)

- 11) 森林生態系での流出水の水質決定因子について

片山 幸土、久枝 弘幸、岸田 多代、川端 良子 (京大農)、
青木 達 (京大 RI センター)、高田 實彌 (京大炉)

- 12) 圧密 Na 型モンモリロナイト中の陽イオンの拡散の活性化エネルギー

小崎 完、藤島 敦、佐藤 大樹、斉藤 暢彦、佐藤 正知、
大橋 弘士 (北大院工)、高田 實彌、森山 裕丈 (京大炉)

一般講演 (ポスター発表)

- P 1) 光および放射線によって誘起されるコバルト錯体の固相反応の反応機構

竹中 康之 (北教大函館)、長谷 博友 (京大炉)、宮武 陽子 (阪大基礎工)、
小藪 明 (北教大函館)

- P 2) 中性子照射によるオーステナイト合金の損傷発達過程

徐 虬、義家 敏正 (京大炉)

- P 3) 卵白ゲル・ガラスの構造

中村 忠嗣、安田 芳章、平松 信康 (福岡大理)、杉山 正明 (九大理)、
原 一広 (九大工)、前田 豊 (京大炉)

- P 4) 強誘電体 d-LTT ($\text{LiTl}(\text{C}_4\text{H}_4\text{O}_6) \cdot \text{H}_2\text{O}$) の中性子回折

岩田 豊、小谷野信光 (京大炉)、出口 潔 (静岡理工科大)、
町田 光男 (九大理)

- P 5) KHSeO_4 結晶の中性子構造解析

花城 清裕 (九大理)、小谷野信光 (京大炉)、町田 光男 (九大理)

- P 6) 鉛スペクトロメータを用いた共鳴中性子領域における Am-243 の核分裂断面積測定

小林 捷平、甲斐 哲也、山本 修二、藤田 薫頭 (京大炉)、木村 逸郎、
山本 秀樹 (京大院工)、篠原 伸夫 (原研)

- P 7) 冷中性子スピン干渉計を用いた量子ビート実験

山崎 大 (京大工)、海老澤 徹、田崎 誠司、河合 武、日野 正裕、
秋吉 恒和 (京大炉)、阿知波紀郎 (九大理)

- P 8) 量子スピン歳差現象を用いた新しい小型中性子スピネコー装置の開発

田崎 誠司、海老澤 徹、日野 正裕、河合 武、秋吉 恒和 (京大炉)、

大竹 淑恵 (理研SPring8)、阿知波紀郎 (九大理)、金谷 利治 (京大化研)、
山崎 大 (京大工)

一般講演 (口頭発表)

座長 河合 武 (京大炉)

13) シンチレータ塗布・光ファイバーを用いた中性子束・ γ 線強度分布測定法の開発

森 千鶴夫、影山 一巳、楨林 康雄、爪谷 章、宮原 洋、柳田 勝男、
井口 哲夫、三澤 毅、山根 義宏 (名大工)、小林 圭二、代谷 誠治、
市原 千博、林 正俊、宇根崎博信 (京大炉)、木村 逸郎 (京大工)、
吉井 康司、高田 英治、中沢 正治 (東大工)

14) ^6Li 化合物を用いた新しい固体型超冷中性子検出器

北垣 敏男、今野 収 (東北大理)、樋口 正人、佐藤 稔、川嶋 崇之、
佐藤 榮信 (東北学院大工)、宇津呂雄彦、川端 祐司、奥村 清 (京大炉)

15) 精密研磨金属製導管の超冷中性子輸送特性

秋山 信道、小野慎一郎、二瓶 仁、井上 信幸 (東大工)、
宇津呂雄彦、奥村 清、川端 祐司 (京大炉)

16) 超冷中性子閉じ込め異常測定装置の設置と特性測定

川端 祐司、宇津呂雄彦 (京大炉)、A. Steyerl, S. S. Malik (ロードアイランド大)、
P. Geltenbort, S. Neumair, V. V. Nesvizhevsky (ラウエ・ランジュバン研究所)

座長 政池 明 (京大理)

17) 冷中性子スピン干渉計の開発と基礎物理への応用

海老澤 徹、田崎 誠司、河合 武、日野 正裕、山崎 大、
秋吉 恒和 (京大炉)、阿知波紀郎 (九大理)、大竹 淑恵 (理研)、
舟橋 春彦 (京大理)

18) 原研改造3号炉 C3-1-2 実験孔における冷中性子干渉

Double-Stern-Gerlach実験による量子力学的観測理論の検証

大竹 淑恵 (理研SPring8)、田崎 誠司、海老澤 徹、河合 武 (京大炉)、
舟橋 春彦 (京大理)

19) 束縛状態におけるラーモア歳差回転とラーモア時計

日野 正裕、田崎 誠司、海老澤 徹、河合 武、秋吉 恒和 (京大炉)、
阿知波紀郎、松元 洋子 (九大理)

20) 低磁場制御多層膜冷中性子偏極パルサーの開発

河合 武、海老澤 徹、田崎 誠司、日野 正裕、山崎 大、
秋吉 恒和 (京大炉)、松元 洋子、阿知波紀郎 (九大理)、大竹 淑恵 (理研)、
舟橋 春彦 (京大理)

特 別 講 演

座長 齊藤 眞弘（京大炉）

21) 京都大学原子炉実験所にお世話になって35年

辻本 忠（京大炉）

1月23日(木)

一般講演（口頭発表）

座長 内海 博司（京大炉）

22) KUR重水熱中性子設備の改修の概要

古林 徹、神田 啓治、藤田 薫頭、櫻井 良憲、小野 公二（京大炉）

23) 重水熱中性子照射設備の安全監視システム

石原 信二、古林 徹、櫻井 良憲、藤田 薫頭（京大炉）

24) 中性子捕捉療法を主目的とした改造KUR重水設備の照射特性

櫻井 良憲、古林 徹、神田 啓治、小野 公二（京大炉）

25) スリースポット法による中性子捕捉療法用含ホウ素芳香族

アミノ酸と有機カルボン酸との相互作用の研究

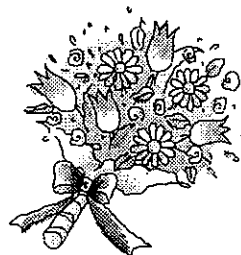
北岡 祥伯、小林 愼江（京大炉）、切畑 光統、櫛本 五男（阪府大農）、
吉野 和夫（信州大理）

特 別 講 演

座長 柴田 誠一（京大炉）

26) 京大炉における一化学者の32年

小林 愼江（京大炉）



7. 原子炉利用研究者グループ総会報告

日 時 平成9年1月23日(木) 12時15分～13時

場 所 京都大学原子炉実験所事務棟会議室

議 事

1. 代表幹事挨拶

木村代表幹事欠席のため、神田幹事(総務担当)が代理で司会役を務めました。

2. 平成8年度会計決算報告

森山幹事(会計担当)より平成8年度会計決算の報告があり、引き続いて、木村代表幹事による会計監査の結果について、神田幹事(総務担当)より報告があり、いずれも承認されました。

3. 平成8年度事業報告

神田幹事(総務担当)より、昨年3月に開催された原子炉実験所改組記念事業の結果の報告があり、承認されました。また、「京都大学原子炉実験所運営委員会委員候補者・共同利用研究委員会委員の推薦方法についての申合せ」により選出された次期運営委員会委員候補者及び共同利用研究委員会委員の推薦案の提案があり、いずれも承認されました。運営委員会委員候補者については、物理系、化学系、生物・医学系、工学系の各分野から1名ずつ、合計4名の候補者が選出されましたが、生物・医学分野の候補者が辞退されたため、今回は残り3名のみを候補者として運営委員会委員として推薦したいとの提案があり承認されました。推薦された候補者及び委員は以下のとおりです。

運営委員会委員候補者

物理系：下村 義治

化学系：橋本 哲夫

工学系：工藤 和彦

共同利用研究委員会委員

物理系：阿知波 紀郎、跡部 紘三

化学系：片山 幸士、竹味 弘勝

生物・医学系：江島 洋介、鈴木 文男

工学系：大澤 孝明、小佐古 敏荘

森山幹事(会計担当)より、原子炉利用研究者グループの環境整備事業の一環として実施されたホットラボ控室の整備及び補正予算による宿泊所の整備について報告があり、また、小野幹事(宿泊・利用環境担当)より、宿泊所のルームエアコンの不具合の手直しなど、利用者より要望のあった課題については次年度申送り事項とする旨の報告があり、承認されました。

4. 規約改正案について

神田幹事（総務担当）より、申合せにより選出された運営委員会委員候補者を、本グループの幹事とする旨の規約改正案の提案があり、承認されました。

5. 平成9年度予算案について

森山幹事（会計担当）より、宿泊所等の環境整備を重点項目とする平成9年度予算案の説明があり、承認されました。

6. 平成9年度事業計画について

森山幹事（幹事担当）より、宿泊所等の環境整備を中心とした平成9年度事業計画について説明があり、承認されました。また、宿泊所のヘアドライヤーの修理およびホットラボ控室のパーソナルコンピュータ増設の要望があり、これらも対処することとなりました。

7. 新幹事の紹介

神田幹事（総務担当）より、平成9年度の新幹事の紹介があり、また、幹事の互選により新代表幹事として木村幹事が選出された旨の報告があり、承認されました。新幹事の顔ぶれは以下のとおりです。

	(所 外)	(所 内)
代表幹事	木村 逸郎	
総 務		神田 啓治
会 計		森山 裕丈
会計監査	橋本 哲夫	
ニュース	工藤 和彦	代谷 誠治
	下村 義浩	齊藤 眞弘
	相沢 乙彦	小林 捷平
庶 務		
庶務全般	坂本 浩	
	阿知波 紀郎	
記 録		藤田 薫顕
		三島 嘉一郎
宿舎・利用環境	片山 幸士	内海 博司
	竹田 敏一	赤星 光彦

8. 「停年」退官によせて 35年の思い出ばなし

(辻本 忠)

京都大学原子炉実験所（以下実験所）に古くからおられた人も少なくなってきましたので、実験所の昔の話をしていただいた方がよいと考えまして、35年の思い出ばなしを学術講演会（平成9年1月23日）の時に致しました。この時は実験所が出来る前の話を致しました。今回は実験所の出来る前の話もいたしますが、主として実験所の建設時代の話に致します。小生も年を取ったせいか、35年前の事はよく思い浮かびます。当時の人の顔および名前は直ぐに出てきますが、最近実験所にこられた人達の名前はなかなか覚えられません。また、顔と名前が一致しません。そのため実験所で、これらの人達とすれちがっても、挨拶もしていないのではないかと心配しております。その様な時にはお許し下さい。

実験所の建設本部時代に親睦団体を作りました。そして、その名前を建設本部員で考えることになり、そのうちの一番よい名前を投票で決める事に致しました。そして当選したのが土橋秀春さんの考えた「望想会」で、原子炉の暴走を望想に読み替えたものです。そして賞金として千円が与えられました。この当時の望想会は絵画鑑賞などによく出掛けたものです。現在の望想会は会員数も増え、多方面にいろいろと活躍されて、所員の親睦に貢献しておられています。

土橋秀春さんの名前が出ましたので、土橋秀春さんの人柄を少し述べさせていただきます。実験所周囲は周辺監視区域になっておりますので柵がされており、所員は正門より入ることになっております。ところが、その柵は西

部宿舍と東部宿舍の近くで何時も破られてしまい所員及び共同利用者はその破れた柵より出入りしておりました。ところが土橋秀春さんは決められた事は必ず守られ、ただ一人西部宿舍より正門まで回られて出勤されておりました。現在の柵は頑丈で、柵を破れば警報が出るようになっておりますが、当時の柵は簡易なものでした。西部宿舍の方は何時の間にか入り口が出来ております。コピーを刷るときは、いまはゼロックスがありますが、昔は青焼きでした。土橋秀春さんは退所するときには、青焼の機械を何時も洗っておられました。物を非常に大切にされておりました。

さて、小生が結婚したのは昭和38年10月31日で、新婚旅行より帰ってきて、大阪の実家（大阪市旭区今市）で明日から実験所に出勤しようと思って、広縁で寝そべっていたところ、実験所より電話が掛かってきました。そして結婚のお祝会をするので、直ぐ実験所に来るように言われました。一度はお断りしたのですが、木村毅一所長先生も待っておられるし、今後結婚した人は実験所でお祝い会をすることになっていると言われ、実験所に出掛けました。当時は快速もなく天王寺より熊取まで約1時間掛かりました。まず熊取駅に着いた時、ランドクルーザ（当時唯一の車でした）で葛野真岐夫さんか、植村公一さんか忘れてしまいましたが、何方かが迎えにきてくださいました。その時のランドクルーザは昨日まで運動会で使った風船で飾られておりました。熊取の駅の近くにいた人達は皆びっくりしておりました。実験所に着くと、これも昨

日の運動会で使用した残りものの音の出る花火に火をつけて、パンパンと景気づけて迎えて下さいました。会場は事務棟会議室で所員全員が集まっておられました。所員全員と言いつても、当時は20名前後であったと思います。そこで結婚のお祝会をして頂きました。ところがその後、実験所の職員も増え、実験所でお祝会をしなくなり全所員によるお祝いは小生が初めてであり、また最後になったと思います。実験所の運動会も何回か行われました。何回目かは憶えておりませんがマラソンで川久保鐵哉先生が一着になりました。その時、少しもめました。当時のマラソンは実験所の野球場を何周かするのですが、川久

保鐵哉先生は1周少なかったと言うのです。しかし、結局川久保鐵哉先生は一着と言うことになり商品は川久保鐵哉先生に与えられました。短距離では柴田俊一先生と石田政弘先生が一着をよく争っておられました。水泳大会は実験所のプールで行われました。このプールは毎年プールの水を抜き、全所員で掃除を致します。その後、水泳大会を行なうのです。このプールは記録が良く出るように25メートルより少し短くしてあるそうです。現在プールの掃除は原子炉部の人が行っています。

思い出しながらいろいろと書いてきましたが、今回はこれ位にして、また機会があれば書くことに致します。

9. 照射部材試験システムについて

平成7年度の補正予算で上記のシステムを実験所に設置いたしました。本システムの構成、性能は以下のとおりです。

1. 透過電子顕微鏡 (JEOL JEM-2010)

加速電圧	: 200kV
分解能	: 粒子像0.19nm以下、格子像0.14nm以下
最小ビーム径	: 0.5nm以下
試料傾斜角	: $\pm 20^\circ$ 以上
収束電子回折	: 収束角 (2α) 1.5~20mrad以上、取込角 $\pm 10^\circ$ 以上
試料室	: サイドエントリー方式
テレビカメラ感度	: $2 \times 10^{-12} \text{ A/cm}^2$ 以上
元素分析	: エネルギー分散型X線分析装置、検出元素B~ $_{92}\text{U}$

2. 走査電子顕微鏡 (JEOL JSM-5800LV)

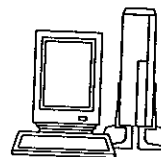
分解能	: 3.5nm以下
像の種類	: 二次電子像、反射電子像
フレームメモリー	: 1,280x960画素以上
元素分析装置	: エネルギー分散型X線分析装置、検出元素B~ $_{92}\text{U}$

3. ダイナミック超微小硬度計 (SIMAZU DUH -201)

荷重 : 0.1~1960mN、測定最小範囲0.2 μ N
押し込み深さ : 0~10 μ m、測定最小単位0.001 μ m
圧子 : ダイヤモンド三角錐圧子

4. 高精度画像記録システム (JEOL PIXsysTEM)

画面データ記録 : イメージングプレート
感度 : $1 \times 10^{-14} \sim 1 \times 10^{-9}$ C/cm²以上
読み出し画素サイズ : 25x25 μ m以下
画像プリント出力 : レーザ露光熱現象転写方式
色数 : C, M, Y各256階調、1670万色



高精度画像記録システムのイメージングプレートは電子顕微鏡フィルムと同じサイズ (10x 8 cm²) ですが、このサイズで良ければコンバータをプレート上に置いたり或いは専用のイメージングプレートを用いることにより、中性子線ラジオグラフ及びX線回折等に利用可能です。

何れの装置も共同利用で使用していただけます。1. 3. 4については核エネルギー基礎研究部門の義家 (TEL. 2473)、2. については放射線生命科学研究部門の河合 (TEL. 2481) にお問い合わせください。

10. 共同利用研究報告書の作成・提出について

平成7年度の共同利用研究報告書の原稿を提出した後、英文校正をすることが、所の方針で急遽決まり、皆さまには大変ご迷惑をお掛け致しました。既に「KURRI Progress Report 1995」は、共同利用研究採択者各位のお手元には、届いていることと思います。

昨年より、英文報告書の下段に、共同利用の採択課題番号と所属、氏名、採択区分を日本語で入れることと引き替えに、和文報告書は廃止されました。そこで、報告書は下記のようにA4版1ページだけになりました。

共同利用研究報告書作成提出要領

1. 提出書類

- (1) 英文共同利用研究報告書 (Progress Reportとして平成9年度中に刊行予定)

A4版1ページ

原稿をtextフォームにおとして、ディスク (FD=1.4MorDD=720k、使用機種を明記) を添

付して下さい。ファイル名は採択課題番号にして下さい。

(2) 発表論文の別刷またはコピー1部とディスクの添付について

共同利用研究等で原子炉実験所の設備等を用いて行われた研究のうち、報告書提出時までの間に、専門雑誌等に掲載された論文の別刷（またはコピー）1部を提出して下さい。これはProgress ReportのPublicationのセクションに、論文リストとして載せるためのものです。もし可能なら、この論文の題目、著者名、所属、アブストラクトも、ディスク（FD=1.4MorDD=720k、使用機種を明記）に、textフォームにおとして、添付して下さいと有り難いです。論文が多くある場合のファイル名は採択課題番号－1、採択課題番号－2、採択課題番号－3等として下さい。

2. 報告書提出期限

平成9年5月30日（金）（必着）

3. 報告書提出先

〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田 京都大学原子炉実験所 総務課共同利用掛

（TEL：0724-51-2312、FAX：0724-51-2620、E-Mail：kyodo@rri.kyoto-u.ac.jp）

但し、プロジェクト研究分担班員の報告書提出先はプロジェクト研究代表者です。

英文共同利用研究報告書（Progress Report）作成要項

原稿の見本1（プロジェクト研究代表者用）及び見本2（プロジェクト分担、一般・共同通常用）を参考にして、下記の要項で原稿を作成して下さい。但し、使用されているソフトが十分な機能がない場合には、要項に合うように切り張りした原稿でも結構です。

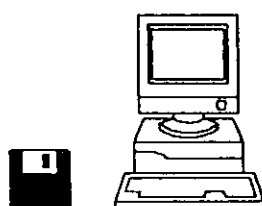
1. 原本はそのままオフセット印刷（原寸大）しますので、camera readyの状態で提出して下さい。
2. A4用紙に、題目は段組みなし、著者名を含めた本文は2段組みにして、図表を含めて、1ページに納めて下さい。
3. オリジナル原稿と、コピー1枚を提出して下さい。原稿は鮮明なプリントにして下さい。もし、可能なら原稿を、textフォームにおとして、ディスク（FD=1.4MorDD=720k、使用機種を明記）で、添付して下さい。ファイル名は採択課題番号にして下さい。
4. ページ余白は上19mm、下22mm、左20mm、右20mmに、2段組みの中間スペースは6.3mmにして下さい。
5. フォントは、Times（英語）もしくは同等フォントを使用して下さい。
6. 題目は、12ポイントのboldとして、左から20mmあけて始め、前置詞、接続詞以外は頭だけを大文字にして書いて下さい。2行にわたっても構いません。
7. 題目の下を1行または2行あけて、2段組みにして、著者名は10ポイントとして、左寄せにし、例えばV. J. Goldanskii, I. M. Barkalov and H. Haseのように書いて下さい。所属

が複数にわたる場合は、名前の右肩に番号を付けて、区分して下さい。

8. 所属は、10ポイントItalicとして、著者名の下1行あけて左寄せで書いて下さい。略名などの場合は全部大文字、その他は頭だけ大文字にして下さい。所属が複数にわたる場合は、対応する番号を左肩に付けて下さい。
9. アブストラクト、キーワードは不要です。
10. 本文は、10ポイントとして、所属欄の下2行空けて始めます。この場合、各パラグラフの始まりにはスペースはいりません。例文は、PURPOSE, MATERIALS AND METHODS形式になっていますが、本文の書き方の書式は、特に設けていません。
11. ページ番号は、必要ありません。
12. 原稿下部には、見本に従って、フッタの機能を用いて、下線を引いた下に、日本語（明朝体もしくは同等フォント、10ポイント）で共同利用採択課題番号、（所属）氏名、採択区分（プロジェクト、一般通常、共同通常）を記入して下さい。
13. 図、表等については、特に書式は設けませんが、1ページに入るようにして下さい。
14. Referencesは、タイトルなしで、その他の書式は例文に従って作成して下さい。
 1. H. Utsumi and M. M. Elkind, *Radiat. Res.*, *77*, 346–360, 1979.
15. Progress Reportにおける研究分野の分類は下記のとおりです。該当する分野の番号を原稿の左上の余白に、鉛筆で記入して下さい。

研究分野の分類

1. Slow Neutron Physics and Neutron Scattering
2. Nuclear Physics and Nuclear Chemistry
3. Reactor Physics and Reactor Engineering
4. Material Science and Radiation Effects
5. Geochemistry and Environmental Science
6. Life Science and Medical Science
7. Neutron Capture Therapy
8. Neutron Radiography and Radiation Application
9. Radioactive Waste Management and Health Physics



Project Research on Neutron Diffraction of Magnetic Materials under an Extreme Condition

S. Kawano

Research Reactor Institute, Kyoto University

OBJECTIVES AND ALLOTTED RESEARCH

SUBJECTS: The objectives of this project research are to elucidate the magnetic structures of *****

[illegible]

One of the experimental characteristics of this project research is to apply a high pressure *****

[illegible]

The allotted research subjects (ARS) are as follows:

ARS-1. Neutron diffraction studies of the magnetic structures of $R\text{RuGe}_2$ (R : rare earth) in an external field (N. Iwata et al). **ARS-2.** Neutron diffraction studies under extreme conditions such as high pressure and high magnetic field (Y. Hashimoto et al.).

ARS-3. *****

ARS-4. *****

ARS-5. *****

MAIN RESULTS AND CONTENTS OF THIS

REPORT: The following six reports were contributed by the research groups on neutron diffraction studies of

```
magnetic materials under *****  
*****  
*****  
*****  
*****  
*****
```

The first report by N. Iwata et al. (ARS-1) clarifies the magnetic structures of $R\text{Ru}_2\text{Ge}_2$ *****

```
*****  
*****  
*****  
*****  
*****
```

In the second report by Y. Hashimoto et al (ARS-2), the effects of high *****

[illegible]

```
*****
有*****
*****
*****
*****
```

In summary, the magnetic structures of *****

A paper concerning ARS-2 is to be published in Journal of *****. An oral presentation concerning ARS-3 was done by ***** at the annual meeting of *****.

Biological Assay Systems Sensitive to Low-energy Neutrons

M. S. Sasaki¹, Y. Ejima¹, N. Mizuma², T. Ohnishi³,
M. Hoshi⁴, and T. Ikushima⁵

¹Radiation Biology Center, ²Research Reactor Institute, Kyoto University, ³Department of Biology, Nara Medical University, ⁴Research Institute for Nuclear Medicine and Biology, Hiroshima University, ⁵Department of Sciences, Kyoto Educational University

```
INTRODUCTION: The biological effectiveness of *
*****
*****
*****
*****
*****
*****
*****
*****
*****
*****
*****
*****
*****
***** we have installed a beam port in KUR for
biological experiments with filtered neutrons.
```

MATERIALS AND METHODS: The outline of the beam port and the energy characteristics of neutrons

***** converter. The frequency of chromosome aberrations was fitted to the hybrid model, $Y = \alpha_\gamma D_\gamma + \beta_\gamma D_\gamma^2 + \alpha_n D_n + \beta_n D_n^2$, in a function of dose and induction coefficients for neutrons and γ -rays with the induction coefficients for ^{60}Co γ -rays.

RESULTS AND DISCUSSION: Dose-response relationship of chromosome aberrations differed among the irradiation systems. However, the difference was mainly due to the difference in the amount of contaminated γ -rays.

 ***** The
 biological effectiveness may not be the same if we assume
 small critical targets within a cell nucleus.

REFERENCES:

1. J. W.Happer, G.R.Adami *et al.*, *Cell*, **75**, 805- 816, 1993.
2. *****

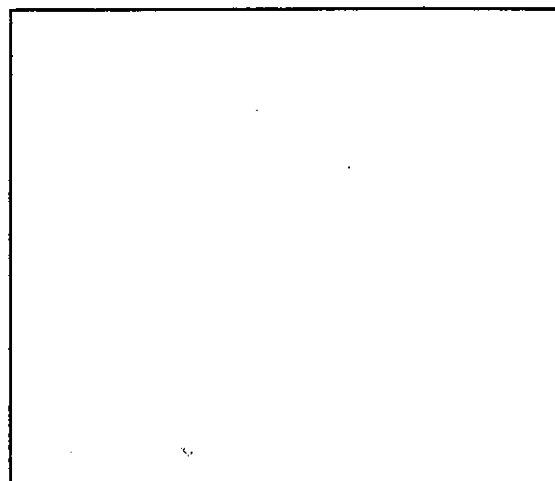


Fig. 1. Dose-response relationships of dicentrics and rings against neutron dose. A: uran fission neutrons. B: system 1. C: system 2.

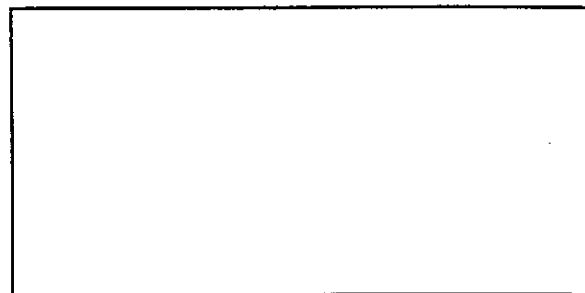


Fig. 2. *****

11. 教官の募集について

原子炉実験所では下記のとおり、教官の募集を行っております。詳しくは原子炉実験所総務課庶務掛気付人事選考委員会（TEL. 0724-51-23110）まで照会下さい。

なお、募集締切りは平成9年5月9日（金）午後5時（必着）となっております。

記

京都大学原子炉実験所は、原子炉による実験及びこれに関連する研究を行うことを目的として設置された全国大学等の共同利用研究所です。当原子炉実験所では、研究炉KURの高度な利用を中心とした研究を行うため、平成7年4月より6研究部門（19研究分野・1客員分野）、2研究施設（2研究分野）の構成で、より活力のある研究所として生まれ変わりました。

今回の募集は、新しい研究体制のもとで、研究及び教育に従事するとともに、共同利用研究設備の維持発展に積極的に貢献する意欲ある人材を募るものです。

募 集 要 項

I. 募集人員等

職名及び 人 数	研究部門等 (研究分野)	職 務 の 内 容	専門とする学術上 の資格に加えて必 要とされる資格
助教授 1 名	核エネルギー基礎 研究部門 (極限熱輸送)	将来の核エネルギー発生システムの開発に関連した熱流動現象の特性及びその計測法に関する基礎研究及びその指導並びに熱特性実験装置等関連する実験設備の利用及び保守管理	な し

II. 提出書類

1. 本人による直接応募の場合

- (1) 履歴書（市販されている通常規格の用紙を使用のこと。）
- (2) 研究歴及び実務歴の概要並びに研究業績（業績一覧及び論文別刷20編以内。特に重要と思われる論文5編については各4部添付のこと。）
- (3) 推薦状（自薦も可）
- (4) 応募理由を記した書類（研究歴や実務歴について照会可能な方複数名について、氏名・連絡先を記載することが望ましい。）

2. 第三者による推薦の場合

(1) 推薦状

この場合、被推薦者本人へは人事選考委員会からその旨連絡し、必要書類を提出していただきます。

III. 提出先

郵便番号 590-04 大阪府泉南郡熊取町野田 京都大学原子炉実験所

総務課庶務掛気付人事選考委員会

（「教官応募関係書類」と表記（朱書）し、郵送の場合は書留にすること。）

12. 原子炉実験所学術公開について

京都大学原子炉実験所では、平成9年度の学術公開（学術関係団体を対象とする施設の公開見学）を、次の通り実施します。ご関心ある団体のご来所をお待ちします。また、関係団体へご周知下されば有り難く存じます。

1. 日時

平成9年

4月7日（月）午後1時～4時

6月2日（月）午後1時～4時

7月7日（月）午後1時～4時

8月4日（月）午後1時～4時

9月1日（月）午後1時～4時

10月6日（月）午後1時～4時

11月10日（月）午後1時～4時

12月1日（月）午後1時～4時

平成10年

1月12日（月）午後1時～4時

2月2日（月）午後1時～4時

3月2日（月）午後1時～4時

2. 申込方法

希望日の前々週の水曜日までに団体名、人数、責任者名および連絡先を記載した文書で申し込む。

3. 申込および問い合わせ先

〒590-04

大阪府泉南郡熊取町野田 京都大学原子炉実験所 総務課庶務掛

電話 0724-51-2310 FAX 0724-51-2600

学術公開委員会

13. 外国人研究者講演会報告

原子炉利用者グループの主催により、下記のとおり講演会が行われました。

平成8年12月9日開催

“Project of Fundamental Neutron Physics Research at LANL”

Dr. G. L. Greene

(Los Alamos National Laboratory)

平成9年1月8日開催

“Present Status and Future Perspectives of Neutron Activation Analysis in China”

Dr. Chitang CHAI

(Institute of High Energy Physics and Laboratory of Nuclear Analysis
Techniques, Academia Sinica)

平成9年1月27日開催

“Monte Carlo Simulations of Resolution Functions and Scan Profiles for
Neutron Three-Axis Spectrometers”

Dr. Jan Saroun

(Nuclear Physics Institute, Academy of Sciences of the Czech Republic)



14. 職員の異動

1. 昇任

平成8年12月1日付け

放射線生命科学研究部門

講師 水 間 長 代

(同部門 助手より)

平成9年3月1日付け

中性子科学研究部門

助教授 秋 吉 恒 和

(同部門 講師より)

//

助教授 河 谷 武

(同部門 助手より)

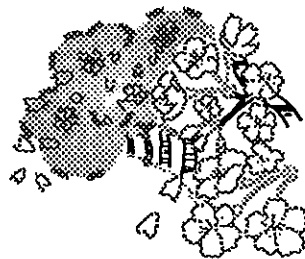
2. 転入

平成9年1月1日付け

経理課用度掛

事務官 深 尾 秀 正

(滋賀大学教育学部より)



15. 委員会メモ

(平成8年11月～平成9年1月)

平成8年

- 11月1日 原子炉医療委員会（回議）
- 11月7日 臨時原子炉安全委員会
- 11月8日 臨時協議員会
- 11月15日 研究計画委員会将来計画小委員会
- 11月20日 協議員会
- 11月22日 研究計画委員会
- 11月25日 第1回外部評価委員会
- 11月27日 原子炉安全委員会
- 12月9日 原子炉医療委員会
- 12月20日 保健物理委員会
- 12月20日 協議員会
- 12月20日 拡大合同原子炉安全委員会・保健物理委員会
- 12月20日 原子炉安全委員会
- 12月24日 研究計画委員会
- 12月24日 研究計画委員会将来計画小委員会
- 12月26日 原子炉医療委員会（回議）
- 12月26日 研究計画委員会（回議）
- 12月27日 臨時原子炉安全委員会

平成9年

- 1月10日 共同利用研究委員会
- 1月17日 研究計画委員会将来計画小委員会
- 1月17日 臨時協議員会
- 1月24日 研究計画委員会
- 1月24日 運営委員会
- 1月31日 協議員会、臨時協議員会
- 1月31日 原子炉安全委員会
- 1月31日 原子炉医療委員会（回議）

別表 1

平成 9 年度 研究炉使用計画 (上半期)

カレンダ ー							区 分	申 込 締切日	計 画 調整日	備 考
	日	月	火	水	木	金 土				
4 月			1	2	3	4 5	オ ー バ ー ホ ー ル	--	--	C A 定期検査 C A 定期検査
	6	7	8	9	10	11 12		--	--	
	13	14	15	16	17	18 19		--	--	
	20	21	22	23	24	25 26		--	--	
5 月	27	28	29	30	1	2 3	定期検査 (施設検) 定期検査 (運転検) 運 転 な し	--	--	
	4	5	6	7	8	9 10		--	--	
	11	12	13	14	15	16 17		--	--	
	18	19	20	21	22	23 24		--	--	
6 月	25	26	27	28	29	30 31	運 転 な し 特 性 利 用 医 療 ・ 定 格 利 用 定格出力利用 (制)	--	--	京大・基礎実験
	1	2	3	4	5	6 7		5/15	5/19	
	8	9	10	11	12	13 14		5/22	5/26	
	15	16	17	18	19	20 21		5/29	6/2	
7 月	22	23	24	25	26	27 28	定 格 出 力 利 用 定 格 出 力 利 用 定格出力利用 (制) 医療・定格利用 (制)	6/5	6/9	C A 全国大学院生実験 C A 全国大学院生実験
	29	30	1	2	3	4 5		6/12	6/16	
	6	7	8	9	10	11 12		6/19	6/23	
	13	14	15	16	17	18 19		6/26	6/30	
8 月	20	21	22	23	24	25 26	定 格 出 力 利 用 K U R 保 守 点 検 作 業 特 性 利 用	7/3	7/7	
	27	28	29	30	31	1 2		--	--	
	3	4	5	6	7	8 9		--	--	
	10	11	12	13	14	15 16		--	--	
9 月	17	18	19	20	21	22 23	定 格 出 力 利 用 定 格 出 力 利 用 医療・低出力利用 定 格 出 力 利 用	7/31	8/4	
	24	25	26	27	28	29 30		8/7	8/11	
	31	1	2	3	4	5 6		8/14	8/18	
	7	8	9	10	11	12 13		8/21	8/25	
9 月	14	15	16	17	18	19 20	医 療 ・ 低 出 力 利 用	8/28	9/1	
	21	22	23	24	25	26 27		9/4	9/8	
	28	29	30	1	2	3 4				

備考：① 医療照射は、[]印付の日が割当日となります。
 ② 定格出力利用は、5000kWの利用運転を主にを行います。
 ③ 定格出力利用 (制) は、②の利用運転を行います但し利用件数の制限をします。
 ④ 低出力利用週は、医療照射の日を除き、低出力での利用或いは一旦停止を必要とする利用運転を行います。また、単日運転になる場合もあります。
 ⑤ 利用週が運転できなかった場合は、下半期の利用週で考慮致します。
 定格出力利用週： 8週 定格出力利用 (制)： 3週 低出力利用運転： 1週
 特性利用： 2週 医療照射： 3日
 *合計利用週： 14週

別表 1

平成 9 年度 研究炉使用計画 (下半期)

カレンダー								区 分	申 込 締切日	計 画 調整日	備 考
	日	月	火	水	木	金	土				
	28	29	30	1	2	3	4		--	--	
10 月	5	6	[7]	8	9	10	11	医療・低出力利用	9/11	9/16	原子力学会 14-17
	12	13	14	15	16	17	18	保 守 の 週	--	--	
	19	20	21	22	23	24	25	保 守 ・ 特 性	9/25	9/29	
	26	27	28	29	30	31	1	定格出力利用(制)	10/2	10/6	京大院生実験
11 月	2	3	[4]	5	6	7	8	医療・定格利用	10/9	10/13	
	9	10	11	12	13	14	15	定格出力利用	10/16	10/20	
	16	17	18	19	20	21	22	定格出力利用	10/23	10/27	
	23	24	[25]	26	27	28	29	医療・定格利用	10/30	11/4	
	30	1	2	3	4	5	6	定格出力利用	11/6	11/10	
12 月	7	8	9	10	11	12	13	定格出力利用	11/13	11/17	
	14	15	[16]	17	18	19	20	医療・定格利用	11/20	11/25	
	21	22	23	24	25	26	27	保 守 の 週	--	--	
	28	29	30	31	1	2	3	運 転 な し	--	--	
1 月	4	5	6	7	8	9	10	定格出力利用	12/11	12/15	
	11	12	[13]	14	15	16	17	医療・低出力利用	12/18	12/22	
	18	19	20	21	22	23	24	定格出力利用	12/18	12/22	
	25	26	27	28	29	30	31	定格出力利用	12/25	1/5	
2 月	1	2	3	4	5	6	7	定格出力利用	1/8	1/12	
	8	9	[10]	11	12	13	14	医療・低出力利用	1/14	1/19	
	15	16	17	18	19	20	21	予 備 の 週	1/22	1/26	
	22	23	24	25	26	27	28		--	--	
3 月	1	2	3	4	5	6	7	オ ー バ ホ ール	--	--	
	8	9	10	11	12	13	14		--	--	
	15	16	17	18	19	20	21		--	--	
	22	23	24	25	26	27	28		--	--	
	29	30	31	1	2	3	4		--	--	

備考: ① 医療照射は、[]印付の日が割当日となります。

② 定格出力利用は、5000kWの利用運転を主に行います。

③ 定格出力利用(制)は、②の利用運転を行いますが利用件数の制限をします。

④ 低出力利用週は、医療照射の日を除き、低出力での利用或いは一旦停止を必要とする利用運転を行います。また、単日運転になる場合もあります。

⑤ 利用週が運転できなかった場合は、予備の週で補償することもあります。

定格出力利用週: 11週 定格出力利用(制): 1週 低出力利用: 3週

保守・特性: 1週 予備の週: 1日 医療照射: 6日

*合計利用週: 17週(予備の週: 1週を含む)

別表 2

平成 9 年度ワークショップ採択一覧

ワークショップ名	申請者	開催責任者	
		所 外	所 内
冷中性子干渉実験の進展とその応用	京大原子炉 助 手 海老澤 徹	九 大 理 教 授 阿知波紀郎	海老澤 徹
大学院実験教育設備の整備	京大原子炉 教 授 西原英晃	九 大 工 教 授 工藤和彦	西原英晃
精密制御材料照射装置の開発・設置と応用	広大工授 教 授 下村義治	九大応力研 教 授 吉田直亮	義家敏正
熱外中性子の生物影響評価	京大原子炉 教 授 内海博司	京大放生研 教 授 佐々木正夫	内海博司

平成 9 年度専門研究会採択一覧

研究会名	申請者	開催責任者	
		所 外	所 内
アクチノイド元素の化学と工学	京大原子炉 教 授 森山裕丈	京大院工 教 授 木村逸郎	森山裕丈
放射線によるDNA損傷の認識と修復の分子機構	京大原子炉 教 授 内海博司	阪大細胞生 非常勤 朝比奈宏 工学センター 講 師	内海博司
中性子束分布測定法の開発と臨界実験	名大工 教 授 森千鶴夫	名大工 教 授 森千鶴夫	代谷誠治
粒子線の高度利用	京大原子炉 教 授 松山奉史	阪大産研 教 授 田川精一	松山奉史
環境中微量物質動態	京大原子炉 助 手 福井正美	日本原研 室 長 松鶴秀夫	福井正美
放射線および原子核をプローブとした物性研究	京大原子炉 教 授 川瀬洋一	阪大基礎工 教 授 那須三郎	川瀬洋一 前田 豊
加速器と原子炉を組み合わせた中性子捕捉療法用照射場の最適化	京大原子炉 講 師 古林 徹	東北大医 教 授 福田 寛	古林 徹 小野公二
次世代の原子炉物理学	京大原子炉 教 授 代谷誠治	阪大工 教 授 竹田敏一	代谷誠治
研究炉安全管理	京大原子炉 教 授 藤田薫顕	近大原研 教 授 柴田俊一	藤田薫顕
不安定核の理工学および核計測法	京大原子炉 助教授 山田 繁	名大工 教 授 河出 清	山田 繁
放射性廃棄物管理	京大院工 教 授 東 邦夫	京大院工 教 授 東 邦夫	小山昭夫
水素同位体の環境及び生体内動態	京大原子炉 教 授 齊藤眞弘	大阪薬科大 助教授 木村捷二郎	齊藤眞弘
ホウ素科学と中性子捕捉療法	京大原子炉 助 手 北岡祥伯	東北大理 教 授 山本嘉則	北岡祥伯

別表 3

平成 9 年度共同利用研究採択一覧表（プロジェクト採択分）

代表申請者	内 海 博 司	研 究 題 目	熱外中性子の生物影響	
申 請 者 ・ 協 力 者			研 究 題 目	実験所内 連 絡 者
氏 名	所 属 ・ 職 名			
星 正 治	広大・原医研	教授	熱・熱外中性子の生物影響研究のため の線量評価	古林 内海
高 純	〃	助教授		
鬼塚 昌彦	久留米大・病院	〃		
上原 周三	九大・医短	教授		
高辻 俊宏	長崎大・R I	講師		
遠藤 暁	広大・原医研	助手		
古林 徹	京大・原子炉	講師		
櫻井 良憲	〃	教務職員		
内海 博司	〃	教授		
佐々木 正夫	京大・放生研	教授	染色体異常からみた熱外中性子の R B E	内海 田野
江島 洋介	〃	助教授		
大西 武雄	奈良医科大	教授	熱外中性子による遺伝子誘導	内海 田野
大西 健	〃	助手		
高橋 昭久	〃	〃		
玉本 哲郎	〃	院生		
内海 博司	京大・原子炉	教授		
田野 恵三	〃	助教授		
内海 博司	京大・原子炉	教授	熱外中性子損傷の修復と突然変異・癌 化	古林 内海 小林（捷）
渡邊 正己	長崎大・薬	〃		
児玉 靖司	〃	助教授		
鈴木 啓司	〃	助手		
巽 紘一	放医研	部長		
高萩 真彦	〃	研究員		
鈴木 文男	広大・原医研	教授		
古林 徹	京大・原子炉	講師		
田野 恵三	〃	助教授		
櫻井 良憲	〃	教務職員		
小林 捷平	〃	助教授		
義本 孝明	〃	技官		

代表申請者		森山裕丈	研究題目	超ウラン元素の管理に関する基礎的研究	
申請者・協力者				研究題目	実験所内 連絡者
氏名		所属・職名			
小林捷平	藤田薫	京大・原子炉	助教授	TRUの核データ測定	
山本修二	甲斐哲也	京大・工	教授		
木村逸郎	神野郁夫	京大・工	技官		
金澤哲	三頭聡明	京大・工	院生		
若林利男	石川眞	京大・工	教授		
大川内靖	日向野直美	京大・工	助手		
杉野和輝		京大・工	教授		
		京大・工	教授		
		京大・工	教授		
		京大・工	教授		
		京大・工	教授		
		京大・工	教授		
		京大・工	教授		
		京大・工	教授		

申請者・協力者			研究題目	実験所内 連絡者
氏名	所属・職名			
馬場 宏	阪大・理	教授	マルチモード核分裂機構と核分裂生成物の核特性の研究	中込 森山 西川
斎藤 直人	"	助教授		
高橋 成人	"	助手		
横山 明彦	"	"		
高官 幸一	阪大院・理	院生		
中西 潔	"	"		
森本 真哉	"	"		
荒木 宏	阪大・理	学生		
真田 潤	"	"		
中込 良廣	京大・原子炉	助教授		
森山 裕丈	"	教授	中性子核分裂の基礎的研究	中込 山本（修）
西川 佐太郎	"	助手		
木村 逸郎	京大院・工	教授		
神野 郁夫	"	助手		
金澤 哲	"	"		
西尾 勝久	"	院生		
伊藤 拓	京大・工	学生		
中込 良廣	京大・原子炉	助教授		
山本 修二	"	技官		
山本 忠史	阪大院・工	教授	放射性核種の地球化学的挙動に関する研究	森山 西川
北村 暁	"	院生		
藤井 俊行	"	"		
森山 裕丈	京大・原子炉	教授		
西川 佐太郎	"	助手		
川本 圭造	"	"		
竹味 弘勝	広大・工	助教授	アクチニド元素及び核分裂生成物の分離分析	森山 西川
護摩 所浩	広大院・工	院生		
藤澤 宏	"	"		
堀田 洋二	"	"		
前田 裕之	"	"		
榊原 弘史	"	"		
森山 裕丈	京大・原子炉	教授		
西川 佐太郎	"	助手		
森山 裕丈	京大・原子炉	教授	TRUのプロセス化学的研究	森山 山名 西川
山名 元	"	助教授		
西川 佐太郎	"	助手		
川本 圭造	"	"		
森谷 公一	京大院・工	助手		
塩川 佳伸	東北大・金研	教授		
山村 朝雄	"	助手		
倉田 正輝	電中研	主査研究員		
加藤 徹也	"	研究員		
瀬下 拓也	動燃東海	"		
北脇 真一	"	"	アクチニドトレーサの調整法に関する研究	山名 西川 小林（捷）
山名 元	京大・原子炉	助教授		
森山 裕丈	"	教授		
西川 佐太郎	"	助手		
小林 捷平	"	助教授		
三頭 聡	東北大・金研	"		

代表申請者	川瀬 洋一	研究題目	短寿命RIによる核物性と核物理	
申請者・協力者		研究題目		実験所内 連絡者
氏名	所属・職名			
大久保 嘉高	京大・原子炉	助教授	接動角相関法による不純物原子の化学 の研究	
柴田 誠一	"	教授		
川瀬 洋一	"	"		
上原 進一	"	助手		
谷口 秋洋	"	"		
斎藤 直彦	阪大・理	助教授		
横山 明彦	"	助手	メスバウアー分光による合成金属の研究	
瀬戸 誠	京大・原子炉	助手		
前田 豊	"	教授	^{197}Au メスバウアー分光による物性研究	瀬戸 上原
北尾 真司	京大院・理	院生		
那須 三郎	阪大・基礎工	教授		
宮坂 昌宏	阪大院・基礎工	院生		
渡部 高幸	"	"		
前田 豊	京大・原子炉	教授		
川瀬 洋一	"	"		
上原 進一	"	助手		
瀬戸 誠	"	"	単結晶 ^{197}Au メスバウアー分光による 混合原子価錯体 $\text{M}_2\text{Au}_2\text{X}_6$ ($\text{M}=\text{K},$ $\text{Rb}, \text{Cs}; \text{X}=\text{Cl}, \text{Br}, \text{I}$) のAu 電子状態の研究	瀬戸 前田 (豊)
小島 憲道	東大院・総合文化	教授		
瀬戸 誠	京大・原子炉	助手	ISOLによる新アイソトープの探求、 及び短寿命核の原子核構造の研究	
山田 繁彦	京大・原子炉	助教授		
青木 一彦	姫工大	講師		
谷口 秋洋	京大・原子炉	助手		
藤川 暢輔	京大院・理	院生		
瀬川 洋一	京大・原子炉	教授	KUR-ISOLによる短寿命核分裂 生成物の研究	谷口 川瀬
山本 洋清	名大・工	助教授		
河出 理尋	"	教授		
柴田 浩司	"	助手		
山内 康明	名大院・工	院生		
小島 浩行	"	"		
鶴野 建治	"	"		
阮 建洋	立教大・理	教授		
川瀬 洋一	京大・原子炉	"	摂動角相関法によるLaフラーレンの 研究	大久保 上原 川瀬
谷口 秋洋	"	助手		
末木 啓介	都立大・理	助手		
中原 弘道	"	教授		
菊池 耕一	"	助教授		
佐藤 渉	都立大院・理	院生		
大久保 嘉高	京大・原子炉	助教授	^{140}Cs イオン注入による超微細磁場の 研究	
川瀬 洋一	"	教授		
上原 進一	"	教授		
川瀬 洋一	京大・原子炉	教授		
大久保 嘉高	"	助教授		
上原 進一	"	助手		
谷口 秋洋	"	"	京大・基礎工	
那須 三郎	阪大・基礎工	教授		

代表申請者	松山 奉史	研究題目	電子線の高度利用研究	
申請者・協力者			研 究 題 目	実験所内 連 絡 者
氏 名	所 属 ・ 職 名			
池澤 幹彦	東北大・科研	教授	短バンチ電子ビームによる広帯域自由 電子レーザーの研究	高橋 松山 小林（捷） 藤田
柴田 行男	〃	助手		
伊師 君弘	〃	〃		
小野 修一	東北大院・理	院生		
井上 雄太	〃	〃		
佐々木 理志	〃	〃		
葛谷 勉	東北大・科研	技官		
松山 奉史	京大・原子炉	教授		
高橋 俊晴	〃	助手		
藤田 薫	〃	教授		
高橋 俊晴	京大・原子炉	助手	電子ライナックによるミリ波コヒーレ ント放射を用いた物性研究	小林（捷）
松山 奉史	〃	教授		
池澤 幹彦	東北大・科研	〃		
柴田 行男	〃	助手		
伊師 君弘	〃	〃		
小野 修一	東北大院・理	院生		
淡野 照義	東北学院大・工	助教授		
瀬戸 誠	京大・原子炉	助手	高エネルギー電子線によるX線放射の 研究	小林（捷）
前田 豊	〃	教授		
高橋 俊晴	〃	助手		
早川 恭史	京大院・理	院生		
小林 捷平	京大・原子炉	助教授	中性子の測定法と高度利用に関する研 究	小林（捷） 藤田
藤田 薫	〃	教授		
山本 修二	〃	技官		
義本 孝明	〃	〃		
甲斐 哲也	京大院・工	院生		
木村 逸郎	〃	教授		
小田 啓二	神戸商船大	助教授		
中川 一成	神戸商船大院	院生		
占部 逸正	福山大学・工	教授		
三浦 俊正	船舶技術研	支所長		
小田 野直	〃	研究官		
小平 好弘	〃	〃		
工藤 勝久	電総研	主任研究官		
武田 直人	〃	研究員		

代表申請者	宇津呂雄彦	研究題目	磁場ポテンシャルによる長波長中性子の減速・制御と量子光学現象の研究		
申請者・協力者			研究題目	実験所内 連絡者	
氏名	所属・職名				
井上 信幸	京大・エネ研	教授	超冷中性子の輸送及び閉じ込め	宇津呂 川端 奥村	
小川 雄一	東大院・工系	助教授			
二瓶 仁	〃	助手			
秋山 信道	〃	院生			
小野 慎一郎	〃	〃			
宇津呂雄彦	京大・原子炉	教授			
川端 祐司	〃	助教授			
奥村 清	〃	技官			
北垣 敏男	東北学院大学工	講師			
堀口 正人	〃	教授			
今野 収	東北大・理	助手	超冷中性子の偏極及び偏極解析		
相沢 大輔	東北学院大院工	院生			
田崎 誠司	京大・原子炉	助手			
阿知 波紀郎	九大・理	教授			
海老沢 徹	京大・原子炉	助手			
宇津呂雄彦	〃	教授			
川端 祐司	〃	助教授			

申請者・協力者			研究題目	実験所内 連絡者
氏名	所属・職名			
阿知波紀郎 河合武 松元洋子 松垣直宏	九大・理 京大・原子炉 九大院・理 "	教授 助教授 院生 "	低磁場パルス制御多層膜冷中性子偏極ミラーの磁化反転動特性	河合(武) 田崎
海老沢徹 河合武 田崎誠司 秋吉恒和 日野正裕 阿知波紀郎 大竹淑恵 舟橋春彦 清水裕彦 山崎大 松垣直宏 松元洋子	京大・原子炉 " " " " 九大・理 理化研 京大・理 理化研 京大院・工 九大院・理 "	助手 助教授 助手 助教授 非常勤研究員 教授 研究員 助手 研究員 院生 " "	位相エコースピン干渉計の特性試験と量子力学基礎研究	
河合武 海老沢徹 田崎誠司 日野正裕 秋吉恒和 山崎大 松元洋子 阿知波紀郎 舟橋春彦 大竹淑恵	京大・原子炉 " " " " 京大院・工 九大院・理 九大・理 京大・理 理化研	助教授 助手 " " 非常勤研究員 助教授 院生 " 教授 助手 研究員	低磁場制御冷中性子偏極パルサーの開発と遅延選択実験	

代表申請者	岡田守民	研究題目	各種材料の低温度領域における温度制御照射効果の研究	
申請者・協力者			研究題目	実験所内 連絡者
氏名	所属・職名			
中川 益夫	香川大・教育	教授	絶縁体結晶の格子欠陥生成における照射温度効果	薬科 岡田
伊藤 寛	"	"		
中西 俊介	"	助教授		
大森 康弘	"	学生		
Kantee Samred	"	研修留学生		
Ausyo Adule	"	"		
岡田 守民	京大・原子炉	助手		
跡部 紘三	鳴門教育大	教授	非金属伝導性物質の照射効果に関する研究	薬科 岡田 林（禎）
福岡 登	"	"		
本田 亮	"	助手		
田代 知典	鳴門教育大院	院生		
佐々 順一	"	"		
岡田 守民	京大・原子炉	助手		
林 禎彦	"	技官		
小原 孝夫	姫工大・理	教授	酸化物超伝導体の照射温度依存性に関する研究	岡田 小高 宮田
上田 光一	"	助手		
岩本 雄二	"	助手		
岡田 守民	京大・原子炉	"		
小高 久男	"	技官		
岡田 東一	阪大・産研	教授	熱伝導マグネット材料の核融合環境試験	岡田 宮田 小高 薬科
西嶋 茂宏	"	助教授		
西浦 徹也	"	助手		
植野 祝	"	"		
布垣 昌伸	"	"		
岡田 守民	京大・原子炉	"		

申請者・協力者			研究題目	実験所内 連絡者
氏名	所属・職名			
蔵元英一	九大・応力研	教授	鉄合金およびグラファイトの低温照射 効果の研究	小高 岡田 宮田
佃 昇	〃	助教授		
安部博信	〃	助手		
大沢一人	〃	〃		
竹中稔	〃	技官		
大窪秀明	九大・総合理工	院生		
大村雅一	〃	〃		
岡田守民	京大・原子炉	助手		
金澤哲	京大院・工	助手	炭化ケイ素の低温領域における温度制 御照射効果の研究	岡田 石原
木村逸郎	〃	教授		
神野郁夫	〃	助手		
石井淳也	〃	院生		
梶居裕二	〃	〃		
岡田守民	京大・原子炉	助手		
石原信二	〃	技官		

平成9年度共同利用研究採択一覧表（通常採択分）

申請者・協力者				研究題目	採択 区分	実験所内 連絡者
氏名		所属・職名				
栗山一男	佐藤茂樹	法政大・工	教授	中性子転換注入化合物半導体の 電気的性質	共同 通常	岡田 小棕
牛山健一	宮本幸全	法政大院・工	院生			
岡田守民		〃	〃			
		〃	〃			
岩田允夫	田口透	山口大・理	教授	RRu ₂ X ₂ (X=Si,Ge) の高磁場 下中性子回折	共同 通常	川野 見谷 福井 (進)
繁岡憲一	山口治	山口大院・理	院生			
岡口真	猪口一治	〃	〃			
川野眞		京大・原子炉	助教授			
笠野裕修	山博行	山口大・理	助手	β-K ₂ SO ₄ 型構造をもつ強誘電 体の低温における相転移	一般 通常	岩田 小谷野
増山祐一	栗原一郎	〃	教授			
河村幸彦		山口大院・理	院生			
		〃	〃			
片山幸士	川端良子	京大・農	助教授	熱中性子放射化分析を用いた植 物中の微量元素の定量に関する 基礎的研究	共同 通常	高田 田中
岸田多	幸代進	京大院・農	院生			
幸代進	西出香	〃	〃			
青木達	香達	〃	〃			
高田実彌		京大・RIセンター	助手			
		京大・原子炉	〃			
江坂享男	高井茂臣	鳥取大・工	教授	中性子ラジオグラフィーによる セラミックス内の微細構造の研 究	共同 通常	米田 藤根 神田
高井正裕	鎌田光彦	〃	助手			
林光彦	朝日康	東京学芸大	助教授			
朝日康	藤根成勲	鳥取大院・工	院生			
藤根成勲	米田憲司	〃	〃			
米田憲司	神田啓治	京大・原子炉	助手			
		〃	教授			

申請者・協力者			研究題目	採択区分	実験所内連絡者
氏名	所属・職名				
小澤 守 梅川 尚嗣 佐波 剛 村上 竜太 三島 嘉一 日引 俊 齊藤 泰司	関大・工 " 関大院・工 " 京大・原子炉 " "	教授 助手 院生 " 教授 助手 教務職員	高負荷熱輸送の能動的制御と安全性に関する研究	共同通常	三島日引齊藤
井野 博満 義家 敏正 柳田 誠也	東大院・工 京大・原子炉 京大院・工	教授 " 院生	鉄中銅原子の照射析出挙動に関する研究	共同通常	義家瀬戸
長谷川 雅幸 唐 正政 真安 正明 義家 敏正	東北大・金研 " 東北大院・工 京大・原子炉	助教授 助手 院生 教授	半導体関連材料中の低温照射効果の研究	共同通常	義家小林（捷）
吉谷 昭彦 薬科 哲男 中野 幸廣 伊藤 真介	鳥取大・教育 京大・原子炉 " 鳥取大院・教育	教授 助手 技官 院生	放射化分析による微量元素組成からみたガラス質火山岩類の特性に関する研究	共同通常	薬科中野
栗栖 牧生 中本 剛 野畑 達人 中村 祐子 原 麗子 安藤 由和 川野 眞治	北陸先端科技大 " 北陸先端科技大院 " " " 鳥取大・教育 京大・原子炉	助教授 助手 院生 " " " 助教授 助手	RNiSn化合物の磁場下の中性子回折	共同通常	川野福井（進）
北川 宏昭 小野 寺紀 園山 卓也 瀬戸 誠	北陸先端科技大 北陸先端科技大院 " 京大・原子炉	助手 院生 " 助手	擬一次元ヨウ素架橋混合原子価金属錯体の ¹²⁹ Iメスbauer分光学的研究	共同通常	瀬戸前田（豊）
平塚 純一 三嶋 豊 本田 千博 吉野 和夫 辛嶋 博 福森 義信 神田 啓治 小野 公二 古林 徹 桜井 良憲 小野 光	川崎医大 神戸大・医 兵庫県立加古川病院 信州大・理 兵庫県保健環境部 神戸学院大学大・薬 京大・原子炉 " " " " " "	講師 非常勤講師 医長 助教授 係長 教授 " " 講師 教務職員 助手	悪性黒色腫の選択的熱中性子捕捉療法の研究—遺伝子導入による癌致死効果増強と腫瘍内 ¹⁰ B濃度の即発γ線法定量—	共同通常	神田古林小野（光）秋吉
小槻 勉 岩田 豊	阪市大・工 京大・原子炉	教授 "	含リチウム遷移金属酸化物の結晶構造解析	共同通常	岩田小谷野
片山 眞之 片山 洋子 川口 広子 入田 優子 中野 幸廣	阪府大・農 阪市大・生活科学 阪府大院・農 阪市大院・生活科学 京大・原子炉	助教授 教授 院生 " 技官	ラット脾臓の各種細胞におけるヒ素取り込みについての研究	共同通常	中野武内
桜井 弘 田和 理 岡 茂範 川西 伸也 西野 則久 藤澤 弥恵 長田 真優 中山 明弘	京都薬科大・薬 " " 京都薬科大院・薬 " " " " "	教授 講師 助手 院生 " " " " "	中性子放射化分析法による動植物中の微量元素の定量	一般通常	高田田中

申請者・協力者			研究題目	採択区分	実験所内連絡者
氏名	所属・職名				
谷崎良之	都立アイソトープ研	副参事研究員	酸性雨が地球環境に及ぼす影響の調査・研究	一般通常	高田田中
伊瀬洋子	"	主任研究員			
小前元智	"	"			
中野智和	"	研究員主任			
佐藤武雄	働東京都神経科学総合研	主任研究員	ヒト組織中の各種元素の放射化分析	一般通常	中野武内
山本好男	滋賀医科大	助手			
加藤洋	都立医短大	"	高温での中性子照射金属中の点欠陥集合体動的挙動と損傷組織発達過程	共同通常	義家林(禎)
下村義治	広大・工	教授			
向田一郎	"	助手			
佐藤裕樹	"	"			
柄澤稔	広大院・工	院生			
欄所敏勝	"	"			
義家敏正	京大・原子炉	教授	電子線型加速器による環境標準試料の放射化分析	一般通常	柴田中野武内
榎本和義	東大・核研	助教授			
大槻勤	東北大・理	助手			
坂本浩	金沢大・理	教授			
宮本ユタカ	金沢大院・自然科学	院生			
羽場宏光	"	"			
松村宏	"・理	"	島弧火成岩及び堆積岩類中の微量元素存在度に関する地球化学的研究	共同通常	高田田中
藤谷達也	海技大・教養	助教授			
寺門靖高	神戸大・発達科学	"			
高田実彌	京大・原子炉	助手			
阿知波紀郎	九大・理	教授	垂直磁場中性子スピネコー法による中性子スピン干渉実験	共同通常	田崎秋吉
松元洋子	九大院・理	院生			
日野正裕	京大・原子炉	非常勤研究員			
秋吉恒和	"	助教授			
海老沢徹	"	助手			
田崎誠司	"	"			
松垣直宏	九大院・理	院生	隕石の熱ルミネッセンス特性の基礎研究	一般通常	長谷小椋
松濤聡	宮城教育大	助教授			
蜷川清隆	岡山理大・理	"	研究用原子炉を用いた中性子ラジオグラフィの基礎研究	共同通常	岡本米田
辻井幸雄	阪府大・先端科学研	講師			
谷口良一	"	助手			
藤代正敏	"	助教授			
岡本賢一	京大・原子炉	技官	TbNiSnの高圧下の中性子回折	共同通常	川野福井
米田憲	"	助手			
安藤由和	鳥取大・教育	助教授			
栗栖生	北陸先端科技大	"			
中本剛	"	助手			
野畑人	北陸先端科技大院	院生			
中村祐子	"	"	隕石鉱物、マントル物質及び比較標準試料の放射化分析	一般通常	柴田西川
原宗麗	"	"			
川野眞治	京大・原子炉	助教授			
坂本浩明	金沢大・理	教授			
石渡和義	"	助教授			
榎本義人	東大・核研	"			
宮本ユタカ	金沢大院・自然科学	院生	隕石鉱物、マントル物質及び比較標準試料の放射化分析	一般通常	柴田西川
石田勇	"	"			
羽場宏光	"	"			
松村宏	"	"			
山下万寿	"	"			
川合勝二	"・理	"			
M.I.U. Bhuiyan	"	"	隕石鉱物、マントル物質及び比較標準試料の放射化分析	一般通常	柴田西川
鷺山幸信	"	"			
本谷充	"	"	隕石鉱物、マントル物質及び比較標準試料の放射化分析	一般通常	柴田西川
本谷充	"	"			

申請者・協力者			研究題目	採択区分	実験所内連絡者
氏名	所属・職名				
宮原 洋 石川 直 富田 憲 上田 直由	名大・工 名大院・工 " "	助教授 院生 " "	短寿命核種の γ 線放出率の測定	一般 通常	山田 谷口
風間 重雄 増渕 伸一 岡田 好正 染谷 英明 山崎 晃	中央大・理工 " 中央大院・理工 " "	教授 技術員 院生 " "	導電性高分子の電子状態とドーパントの存在状態	一般 通常	松山 高田
原田 和樹 齊藤 眞弘 水間 長代 中野 立央 帯屋 有里 尾崎 由季 今村 正浩	P L学園女子短大附属植物研 京大・原子炉 " 附属植物研 " " 関西医科大	教授 " 講師 助手 研究職員 " 助手	放射線高抵抗性細菌Deinococcus radioduransにおける高LET放射線とハイパーサーミアの相乗致死効果に関する研究	共同 通常	齊藤 水間（長） 小堀
水田 敏夫 石山 大三 佐藤 比奈子 ビクトル マグランバヤン 伊藤 英忠 庄司 瑞彦 地主 卓弥	秋田大・鉾山 " " 秋田大院・鉾山 " " "	助教授 講師 技官 院生 " " "	層状金属鉾床と関連する火成岩類の地球化学的研究	一般 通常	高田 川本
森澤 眞輔 堀内 将人 米田 稔 高岡 昌輝 西牧 研壮 颯田 尚哉 高田 実彌 保田 浩志 渡辺 信久 隅谷 純子 森田 真史	京大院・工 " " " 京大・原子炉 " " 放医研 大阪市立環境研 京大院・工 "	教授 助手 " " 助教授 助手 " 研究員 " 院生 "	ケミカルフォールアウトによるアンチモンの負荷と環境中動態に関する研究	共同 通常	西牧 颯田 高田
河野 益近 吉田 紘二 高橋 修 内藤 正裕 高田 実彌	京大院・工 " " " 京大・原子炉	教務職員 助手 " 技官 助手	紙に含まれる微量元素の分析	共同 通常	高田 田中
萩原 理加 野平 俊浩 北下 浩二 錦織 徳二 岩田 豊 森山 裕丈 川野 眞治	京大院・エネルギー科学 京大院・工 京大院・エネルギー " 京大・原子炉 " "	助教授 院生 " " 教授 " 助教授	中性子回折法による重金属フッ化物、水素化物中の軽元素の位置決定（Ⅱ）	共同 通常	川野 岩田 森山
田上 高広 周藤 正史 山田 隆二 佐藤 佳子 山際 敦史 田内 久代 長谷部 徳子 福谷 垂子 森渡 聡 渡辺 宏昭	京大院・理 京大・総合人間 京大院・理 " " " 金沢大院・自然 金沢大院・理 " "	助手 研究員 院生 " " " 助手 院生 " "	放射年代から見た島弧の進化	一般 通常	西川 高田

申請者・協力者				研究題目	採択 区分	実験所内 連絡者
氏名	所属・職名					
松田高明 森永男 板谷丸 兵藤信 大平寛	姫工大・理 " 岡山理大・自然研 " 島根大・総合理工			教授 助教授 教授 講師 助手	一般 通常	西川 高田
河出清 釣田幸雄 鶴野行 夏目久 北森重	名大・工 " 名大院・工 " "			教授 技官 院生 " "		
玉置昌義 舟橋隆 西根之 藤根成 米田憲 神田啓	名大・工 名大院・工 " 京大・原子炉 " "			助教授 院生 " 助手 " 教授	共同 通常	藤根 神田 米田
加藤喜久雄 古川路明 篠原厚 小島貞男 小田寛貴 小牧香織 高田実	名大・大気水圏科研 名大院・理 " 愛知医大 名大院・理 " 京大・原子炉			教授 " 助手 " 院生 " 助手		
増澤敏行 高松武次郎 川嶋宗継 小杉史 高田剛史 実彌	名大・大気水圏科研 国立環境研 滋賀大・教育 名大院・理 京大・原子炉			助教授 室長 教授 院生 助手	共同 通常	高田 田中
堂山昌男 桐谷道雄 義家敏正 林禎彦 徐虬	帝京科学大・理工 広島工大・工 京大・原子炉 " "			教授 " " 技官 助手		
橋本侑三 川野眞治 梶尾淹宏	福岡教育大 京大・原子炉 福岡教育大院			教授 助教授 院生	共同 通常	川野 見谷
平松信康 中村忠嗣 塩田満大 野中新太郎 杉山正明 湯浅親範 前田豊	福岡大・理 " 福岡大院・理 " 九大・理 九大院・理 京大・原子炉			教授 助手 院生 " 助手 院生 教授		
関山達也 山口一裕 松田高明 米沢剛 西川佐太郎 高田実彌	岡山理大・理 " 姫工大・理 岡山理大・理 京大・原子炉 "			教授 講師 教授 学生 助手 "	共同 通常	西川 高田
井伊伸夫 鈴木英資 岩田豊	無機材質研 " 京大・原子炉			主任研究官 重点研究支援協力員 教授		
野見山一生 高橋博樹	自治医科大 "			教授 研究生	一般 通常	中野 武内

申請者・協力者				研究題目	採択区分	実験所内連絡者
氏名	所属・職名					
荒川 泰昭 武内 孝之 中野 幸廣 中島 晴信 大森 佐興 平野 裕司 伊倉 宏一 森川 歩 浅田 秀基	静岡県立大・食品栄養科学 教授 京大・原子炉 助手 " 技官 " 主任研究員 阪府立公衆研 教授 大妻女子大・社会情報 教授 静岡県立大院・生活科学 院生 " " " " " "			脳の病的老化と微量元素に関する研究	共同通常	中野 武内
町田 光男 塩野 正明 花城 清裕	九大・理 助教授 " 助手 九大院・理 院生			水素結合型物質における同位体効果	一般通常	岩田 見谷 小谷野
淡野 照義 松山 奉史 高橋 俊晴 半田 克佳 佐々木 直武	東北学院大・工 助教授 京大・原子炉 教授 " 助手 東北学院大院・工 院生 " "			アンモニウム銀ハライドの放射線損傷の研究	共同通常	高橋 松山 薬科
平良 初男 大森 保朗 棚原 朗 高嶺 朝一郎 森 矛都 李 受映 N.P. Sukumaran	琉球大・理 教授 " 助教授 " ・機器分析センター 琉球大院・理 院生 " " " " " "			サンゴ礁・沖縄トラフ海底堆積物の微量元素含有量	一般通常	高田 田中
柳衛 宏宣 野中 泰政 小野 公二 神田 啓治 古林 徹	" " " " 京大・原子炉 教授 " " " 講師			ポリエチレングリコール結合タンパク・リボソームの中性子捕捉療法への応用	共同通常	海老澤 神田 小野（公）
大橋 弘士 佐藤 正知 小崎 完 モハマド サマドファミン 齊藤 暢彦 佐藤 大樹 上嶋 宏和 森山 裕丈 高田 実彌	北大院・工 教授 " 助教授 " 助手 " 院生 " " " " " " 京大・原子炉 教授 " 助手			地層処分工学障壁材の特性評価に関する基礎研究	共同通常	高田 森山
松浦 かおる 長谷 博友 小西 由也	名古屋工技研 主任研究官 京大・原子炉 教授 名古屋工技研 研究員			γ 線照射によるアルカリハライド水溶液におけるRu(bpy) ₃ ³⁺ の生成	共同通常	長谷 小椋
天野 良平 安東 醇 大石 茂雄	金沢大・医 教授 " " " 助手			医学・生物学的に興味あるゲルろ過分離試料の放射化分析	一般通常	高田 柴田
徳植 公一 中山 秀次 古林 徹治 神田 啓公 小野 公二	国立がんセンター 医員 " レジデント 京大・原子炉 講師 " 教授 " "			乳癌皮下転移に体するガドリニウム中性子捕捉反応を用いたターゲットング療法	共同通常	神田 古林 小野（公）
松田 義尚 横山 拓史 岡上 吉広 栗山 太	九大・理 教授 " 助教授 " 助手 九大院・理 院生			γ 線照射による不活性かご分子の水素原子の捕捉挙動：置換基及び骨格構造の影響	一般通常	小椋 長谷

申請者・協力者				研究 題 目	採択 区分	実験所所内 連 絡 者
氏 名		所 属 ・ 職 名				
杉山 正明 湯浅 親範 平松 信康 中村 忠嗣 塩田 満大 野中 新太郎 前田 豊	九大・理 九大院・理 福岡大・理 " 福岡大院・理 " 京大・原子炉	助手 院生 教授 助手 院生 " 教授		中性子小角散乱法を用いた高分子構造の研究	共同 通常	瀬戸 前田（豊） 川口
橋本 哲夫 佐藤 兼章 安田 賢哉 須貝 紀之 片山 肇 坂上 存 杉山 直 長谷 博友	新潟大・理 新潟大院・自然科学 " " " " " 京大・原子炉	教授 院生 " " " " " 教授		石英中のAl・Na不純物熱中性子放射化分析と γ 線照射由来ESRとルミネッセンス観測	共同 通常	長谷 薬科 高田
小野寺 昭史 阿知波 紀郎 中井 裕治 川野 眞	阪大・基礎工 九大・理 静岡理工科大 京大・原子炉	助教授 教授 " 助教授		ヘルカル磁性ホルミウムの磁化過程におけるヘリファン相	共同 通常	川野 福井（進）
木野村 淳 藤井 兼栄 林 禎彦 義家 敏正 武内 孝幸 中野 幸廣	大阪工技研 " 京大・原子炉 " " " "	主任研究官 室長 技官 教授 助手 技官		照射損傷を媒介とした結晶成長と拡散過程の研究	共同 通常	林（禎） 義家 武内 中野
柚木 英志 片岡 敏夫 古田 昭 工藤 定章 藤川 陽子	岡山県環境保健センター " 動燃・人形峠 京大・原子炉 "	特別研究員 専門研究員 課長代理 教授 助手		環境試料中のウラン同位体に関する研究	共同 通常	工藤 藤川
菅原 正孝 三井 光彦 岡野 善徳 工藤 章 藤川 陽子	大阪産大・工 大阪産大院・工 " 京大・原子炉 "	教授 院生 " 教授 助手		水俣湾から八代海への底質流出に伴う水銀の分布と化学形態の変遷に関する研究	共同 通常	工藤 藤川
今井 佐金 長谷川 明彦 植木 啓次 高田 実彌	神戸市環境研 " " 京大・原子炉	部長 副部長 " 助手		放射化分析法による植物、特にせん苔類、羊歯類の微量元素濃縮と環境評価の研究	共同 通常	高田 田中
荒井 重義 寺澤 昇久 星野 幹雄 宮武 陽子 長谷 博友	京工繊大・工芸 " 理化学研 阪大・基礎工 京大・原子炉	教授 教務職員 副主任研究員 教務職員 教授		低温マトリックス中の金属原子の光学的性質	共同 通常	長谷 小椋
片山 誠二 小澤 一夫 小椋 正道	静岡県立大・薬 静岡県立大院・薬 京大・原子炉	助教授 院生 技官		分子集合体の γ 線架橋とその構造と物性	共同 通常	小椋 長谷
原見 太幹 横谷 明徳 長谷 博友	原研・関西研 " 京大・原子炉	室長 研究員 技官		γ 線およびSR光によるラジカルプロセスの磁気共鳴研究	共同 通常	薬科 長谷
大森 佐與子 高橋 ユリア 中武 内 中野 信之 幸廣	大妻女子大・社会情報 " ・短期大学 阪府立公衆研 京大・原子炉 "	教授 講師 主任研究員 助手 技官		毛髪メタルバランスによる病態把握に関する研究	共同 通常	中野 武内

申請者・協力者				研究題目	採択区分	実験所内連絡者
氏名	所属・職名					
松村明 渡辺智 早川吉 田代文 小野公二	筑波大 筑波大院・医 筑波大 " 京大・原子炉	講師 院生 講師 助手 教授		ボロンポリフィリン化合物を用いた中性子捕捉療法のための基礎的研究	共同通常	古林小野(公)増永
竹中康之 長谷博友 宮武陽子	北海道教育大・函館校 京大・原子炉 阪大・基礎工	助教授 教授 教務職員		光および放射線により誘起されるコバルト錯体の固相反応の機構	共同通常	長谷小椋
上田聖 今堀良夫 大森義男 小野公二 増永慎一郎 高垣政雄 木梨友子 古林徹	京都府立医大 " " 京大・原子炉 " " " "	教授 助手 " 教授 助教授 助手 " 講師		脳腫瘍の中性子捕捉療法における細胞死と再発メカニズムの研究	共同通常	小野(公)増永高垣木梨古林河井(武)
増澤文 村田忠 尾崎誠 雨森晃 萱井裕子 米田憲司 岡本賢一 高田実	御興寺文化財研保存科学センター センター長 " " " " 京大・原子炉 " "	 研究員 " " " 助手 技官 助手		出土した金属と共存する繊維・織物などの調査研究	共同通常	米田高田
市橋正光 上田登 尾藤利憲 鷲尾文郎 鶴田顕太 本田千博 平塚純一 吉野和夫 福田寛司 内海博徹 小林光一	神戸大・医 " 神戸大院・医 " " 兵庫県立加古川病院 川崎医大 信州大・理 東北大・加齢研 京大・原子炉 " "	教授 助教授 院生 " " 医長 講師 助教授 教授 " 講師 助手		新しい中性子放射場における黒色腫の熱中性子捕捉療法樹立のための条件設定	共同通常	田崎古林小野(光)
三辻利一 中山論 武内孝之 中野幸廣	奈良教育大 " 京大・原子炉 "	教授 学生 助手 技官		放射化分析法による考古遺物の理学的研究	共同通常	中野竹内
武蔵野 石賀裕 三宅康幸 池元壯彦 高橋康 道前かお	京教大・教育 島根大・総合理工 信州大・理 信州大院・理 " 阪市大院・理	教授 助教授 " 院生 " "		西南日本内帯古期泥質岩の希土類元素組成	一般通常	高田田中
大辻友雄 井川博雅 菅井俊雄 三日嘉一郎 齊藤泰司	神戸商船大 " 神戸商船大院 京大・原子炉 " "	教授 助教授 院生 教授 助手 教務職員		下降流サブクール沸騰下における限界熱流束発生機構	共同通常	三島日引齊藤
佐野栄 田崎耕市 神原正幸 村洋子 田正英 正高憲宏 高橋智宏	愛媛大・教育 " " 愛媛大院・理 " "	助教授 教授 助教授 院生 " "		微量元素の存在度からみた中・古生代海洋性玄武岩の成因に関する研究	一般通常	中野武内

申請者・協力者			研究題目	採択区分	実験所内連絡者
氏名	所属・職名				
竹内 啓 中市 統三 白水 完治 堀由 布子 長谷川 俊成 高垣 政雄	岩手大・農 山口大・農 " " " 京大・原子炉	教授 助教授 助手 学生 " 助手	硼素中性子捕捉療法における硼素化合物の分布に関する実験的検討	共同通常	高垣 古林
中川 義信 桐野 有成 斎藤 敬三 福田 邦明 夫 敬憲 古林 徹治 神田 啓	国立療養所香川小児病院 " " " " 京大・原子炉 "	医長 " " 医員 " 講師 教授	脳腫瘍に対する熱中性子捕捉療法—基礎的研究—	共同通常	古林 神田
星野 幹雄 荒井重義 宮武陽子 長谷博友	理化学研 京工織大・工芸 阪大・基礎工 京大・原子炉	副主任研究員 教授 教務職員 教授	低温ガンマ線照射による金属錯体の研究	共同通常	長谷 小椋
堀谷 智勝 浦晴 二郎 井川 史 平尾 順 松本 聡 赤星 光彦 河合 建一 中野 幸廣	鳥取大・医 " " " " 京大・原子炉 " "	教授 助手 研究生 " " 教授 助手 技官	悪性脳腫瘍に対するCDDPの至適投与法に関する研究	共同通常	赤星 河合（武） 中野
谷脇 雅文 浜田 弘一 林 靖二 義家 敏彦 林 禎正	北大・工 " 北大院・工 京大・原子炉 "	助教授 技官 院生 教授 技官	イオン注入法によって化合物半導体に形成される欠陥と捕獲準位に関する研究	共同通常	林（禎） 義家
小野 公二 織田 史 中島 文 宮武 伸一 増永 慎一郎 高垣 政雄 木梨 子 鈴木 実 古林 徹 櫻井 良憲	京大・原子炉 神戸市中央市民病院 阪市大・医 京大・医 京大・原子炉 " " 京大院・医 京大・原子炉 "	教授 部長 助教授 講師 助教授 助手 " " 院生 講師 教務職員	悪性腫瘍に対する中性子捕捉療法 法の基礎研究	共同通常	秋吉
川野 眞治 山本 直一 雨沢 浩史	京大・原子炉 京大・人環 "	助教授 教授 助手	希土類金属、合金の高圧・高磁場下中性子回折	共同通常	福井 見谷
山崎 敬三 下 道 飯田 孝夫 児島 紘 黒澤 龍平 山岸 司郎 山西 城 藤元 憲三 米原 英典 床次 真司 飯本 武 古田 昭 伊藤 公雄 石森 有 佐野 治 岡本 彦 本 賢 本 孝明	京大・原子炉 岐阜医療短大 名大・工 東京理科大・理工 早大・理工学総合センター 早大院・理工 核融合研 放医研 " " " 動燃・人形峠 " " 京大・原子炉 " "	助手 教授 助教授 教授 " 院生 助手 室長 主任研究官 研究員 客員研究員 課長補佐 研究員 " " 技官 " "	京大炉におけるラドンの職業人被ばく線量評価	共同通常	

申請者・協力者				研究題目	採択区分	実験所内連絡者
氏名	所属・職名					
中川義信	国立療養所香川小児病院	医長	脳腫瘍に対する熱中性子捕捉療法－臨床例の検討－	共同通常	神田古林河合(武)小野(公)増永高垣木梨	
桐野有成	"	"				
斎藤敬三	"	"				
小川典子	"	医員				
夫敬憲	"	"				
行天徹矢	国立善通寺病院	医長				
上田博弓	"	医員				
松村明雄	筑波大	講師				
山内康雄	関西医科大	助教授				
小栗康二	香川医科大	教授				
小松久男	"	助教授				
北村克司	阿南共栄病院	助手	中性子捕捉療法の臨床的研究	共同通常		
古林徹治	京大・原子炉	講師				
神田啓	"	教授				
小野公二	京大・原子炉	教授				
増永慎一郎	"	助教授				
高垣政雄	"	助手				
木梨友子	"	"				
鈴木実治	京大院・医	院生				
神田啓	京大・原子炉	教授				
古林徹一	"	講師				
小野光一	"	助手	ヒト悪性黒色腫の熱中性子捕捉療法	共同通常	田崎	
櫻井良憲	"	教務職員				
小野公二	京大・原子炉	教授				
三嶋正光	神大・医	非常勤講師				
市橋千博	"	教授				
本田和夫	兵庫県立加古川病院	医長				
吉野寛一	信州大・理	助手				
福田純一	東北大・加齢研	教授				
平塚博治	川崎医大	講師				
辛嶋啓	兵庫県保健環境部	係長				
神田徹治	京大・原子炉	教授	悪性脳腫瘍に対する熱外中性子捕捉療法のポジトロンCTを用いた最適に関する研究	共同通常	小野(公)増永高垣木梨古林神田秋吉	
古林政雄	"	講師				
高垣政一	"	助手				
小野光一	"	"				
上田聖夫	京都府立医大	教授				
今堀良夫	"	助手				
大森義男	"	"				
小野公二	京大・原子炉	教授				
増永慎一郎	"	助教授				
高垣政雄	"	助手				
木梨友子	"	"	珪素化合物との併用による悪性神経膠腫の治療	共同通常	小野(公)高垣古林増永木梨河合(武)	
古林徹治	"	講師				
神田啓	"	教授				
織田祥史	神戸市立中央病院	部長				
美和智	"	医長				
中野公二	"	専攻医				
小野雄二	京大・原子炉	教授				
高垣政一	"	助手				
古林徹治	"	講師				
増永慎一郎	"	助教授				
木梨友子	"	助手	京大院・医	院生		
鈴木実	京大院・医	院生				

編集後記

本誌にあるように、去る1月23、24の両日、平成8年度の「将来計画」短期研究会が開催されました。その中で、「運営委員会」の下部組織にある「研究計画委員会」の中の「将来計画小委員会」で検討してきた案が紹介されました。加速器を併用した「ハイブリッド型中性子源」です。“たたき台のたたき台”とのことでしたが、具体的な案がでてきたことで昨年の研究会より一段といい議論になったように思われます。学審報告がだされたのが平成5年7月で、このときKURの今後10年間の在り方が提起されたと受け取れば、テンポが遅いという印象は拭えませんが、平成7年4月の改組を経てようやく次のステップへ踏み出したといえるでしょう。これから内容をブラッシュ・アップしていくことが大切で、結果として紹介された案が跡形もなく変わったものになったとしてもかまわないわけですし、小委員会の窓口は常時オープンになっていますから、どんどん質問・意見を届けていただきたいと思います。

今後、将来計画をオール西日本、オールジャパンの計画とするための活動も同時に進める必要があります。また、平成8年度に受けた通常の外部評価のまとめは近々公表の段階にありますが、今年あたり学審のチェック・アンド・レビューを別途受ける必要もあります。それらの前に、実験所の依って立つ基盤をはっきりさせ、学問的に意義があり全国的にインパクトのある内容にすることが重要です。皆様の協力を得ておおいに議論が盛り上がることを願わずにはられません。